



VALQUA Corporate Report

Corporate Profile &
2023-2024 Sustainability Report



VALQUA Group

お問い合わせ先: 株式会社バルカー
総務部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560
〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階
<https://www.valqua.co.jp>
発行年月: 2024年7月





代表取締役会長 CEO
瀧澤 利一

バルカーグループのサステナビリティ H&S企業としての貢献

1. 企業理念「THE VALQUA WAY」と目指す企業像

平素はバルカーグループの企業活動に、ご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

バルカーは、1927年に創業し、社名の由来でもあるValue（価値の創造）& Quality（品質の向上）の基本理念のもと、シール製品の販売とシールエンジニアリングサービスを通してお客さまに感動を提供し、あらゆるステークホルダーから信頼いただける企業であり続けることを社会的責務としてきました。

2027年に創業100周年を迎える当社グループは、2020年に“創業100周年の

ありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を掲げました。

この企業像の中では、「環境・社会・企業統治」に積極的に取り組む、地球市民としてサステナビリティへの取り組み姿勢も明確にしました。

100周年とその先に目指す企業像の実現に向けては、当社グループの根幹である企業理念「THE VALQUA WAY」を中心としたビジョナリー経営を追求し、深化させることが重要です。「THE VALQUA WAY」は、基本理念Value& Qualityとしての性格と、従業員の指針、

判断基準、コミュニケーションツールといったより実践的な側面を併せ持つ独自の概念です。これまでの事業活動の歩みの中で、逆境下での経営目標の達成などビジョナリー経営が奏功してきたと考えていますし、今後も、当社グループと従業員にとって共有しつづける大切な礎です。今年度からは「Well-being 経営」を加え従業員への支援を通してビジョナリー経営を側面から強化していきます。

2. サステナビリティ H&Sへの展開

当社グループでは、サステナビリティを“企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、健全で持続的な成長と持続可能な社会を実現すること”と位置付けています。

このサステナビリティの視点からお客さまのプラント操業の安心、安全への貢献のため「H&S企業への脱皮」を打ち出したのが10年前の2014年です。プラントの

老朽化、保守の技能継承などの問題から、プラント操業の安全性を如何に確保するかが課題となる中、製品のみならずシールエンジニアリングサービスを通して、課題の解決へ貢献することを目指しました。

その主要なものがSTC（シールトレーニングセンター）の展開と講師となる人材の育成です。この間、STCの国内外で

の設置と受講者の広がりによりプラント操業の安心、安全に少なからず寄与できていると考えています。現在、デジタルAIの活用やセンシング技術等による、新たなサービスビジネス創出との組み合わせで、H&S企業として貢献できる領域を拡大していきたいと考えています。

創業100周年とその先へ 新中期経営計画New Frontier 2026(NF2026)の価値創造

社会の価値観が一層複雑、多様化し、不確実性にさらされている現在、今後ともステークホルダーの最高満足とサステナビリティにつなげる取り組みである新中期経営計画(NF2026)を2024年度からスタートしました。

まず、企業理念「THE VALQUA WAY」との整合性を常に自問自答し、当社グループの在り方、方向性と価値創造の方法を追求していく目線を確立しなくてはなりません。

また、地政学リスクの増大に対応するサプライチェーンの再構築を進めてきましたが、今年度はさらなる環境変化に対応するためのサプライチェーン改革と日本市場での強靱化を着実に実行していきます。

さまざまな社会課題を解決し、持続可能な社会を実現するためにもDXは非常に重要な取り組みと位置付けられています。すでに実現した社内外のDXの成果をもとに、本年をデジタルイノベーション元年と位置付け新たなビジネスモデルの構築を強力かつ迅速に進めていきます。

NF2026を開始する節目の今年、創業100周年と将来にわたる持続的な成長と更なる企業価値向上を目指し、社長COOの交代を含む経営体制の世代交代を行いました。

これに合わせ、これまでの“サステナビリティレポート”を、“コーポレートレポート”へ名称を変更して発行しました。昨年サステナビリティレポートに会社

案内を統合しましたが、本年は、当社グループをより知っていただくために、サブタイトル“コーポレートプロフィール&2023-2024サステナビリティレポート”の通り、企業情報をより意識したサステナビリティ活動報告との2本立ての構成としています。今年度は当社グループの取り組みとしてお伝えしたい新体制、価値創造の両輪となるDXと人的資本に関する3テーマを特集としました。

新体制とNF2026によって、バルカーグループの目指す姿と活動が、社会課題の解決、サステナビリティにつながると信じ取り組んでいきます。今後とも、バルカーグループへの変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上

中期経営計画(NF2026)の基本方針
(New Frontier 2026)

世界の分断が急激に進みデジタル化によるビジネスモデルが激変する環境下において「THE VALQUA WAY」のもと
マルチ視点でステークホルダーの最高満足に向けて新たな価値創造に邁進しよう

- 1. 激変する世界において本質を追求する目線の確立とそれに伴う人材育成
- 2. 地政学リスクの増大に対応した更なるサプライチェーンの改革と強靱化
- 3. デジタルイノベーション加速による新たなAI／ITソリューション事業のマネタイズ
- 4. 「技術流出」の徹底防止と新領域・新技術の見極め
- 5. 「Think Globally, Act Locally」によるグローカリゼーションの徹底

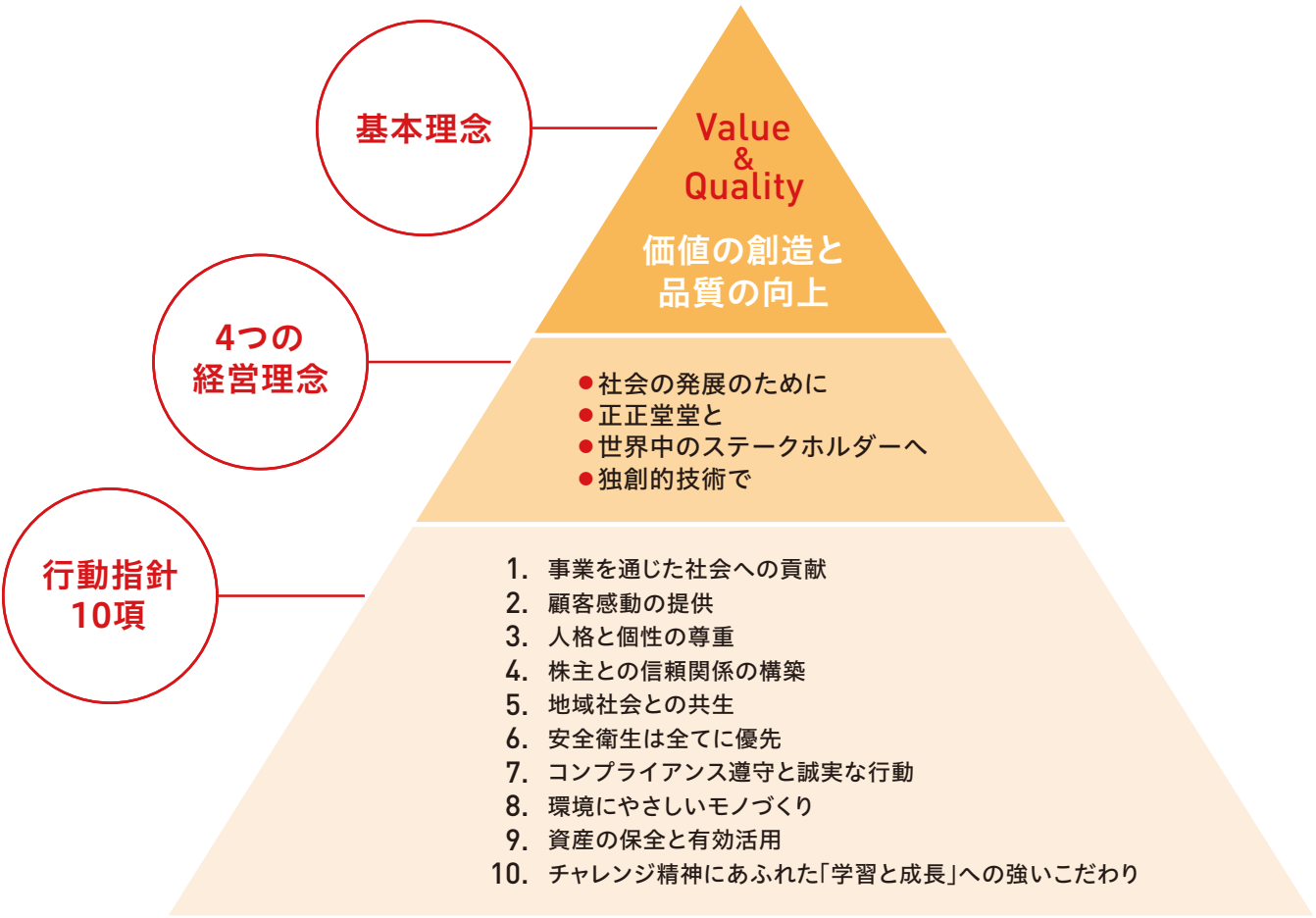
創業100周年(2027年)のありたい企業像
未来と未知に挑むチャレンジングな企業

- 1. あくなき成長戦略の追求とモニタリング
- 2. 成長をゆるぎないものにする経営基盤の強化
- 3. より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」への積極的な取り組みを実践する

企業理念

THE VALQUA WAY

バルカーグループの企業理念「THE VALQUA WAY」は、
社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality」、
それをさらに従業員が理解し実践しやすくした「4つの経営理念」、そして「行動指針10項」で構成されています。
この深い理解と実践こそが、バルカーグループのサステナビリティの根幹となっています。
バルカーグループは、これからも、人類の豊かさと地球環境に貢献するために
「価値の創造と品質の向上」を追求し続けてまいります。



Corporate Profile &
2023 - 2024 Sustainability Report

CONTENTS

トップメッセージ	02
企業理念	04
目次	05

事業概要	
バルカーグループの事業概要	06
バルカーと社会との関わり	08
バルカーグループネットワーク	10

トピックス	
特集1	
新組織体制の紹介	12

特集2	成長のNext stage
“安心・安全で持続可能な未来”に貢献するために。 「THE VALQUA WAY」に根ざしたH&S企業への変革	14

特集3	人材育成
バルカーが目指す「人的資本経営」の 現在地と未来	16

サステナビリティマネジメント全般	
サステナビリティマネジメント	20
サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ)の特定	21
サステナビリティ重要課題	22

バルカーグループ 2023年度 サステナビリティ活動

コーポレート・ガバナンス	
01. 企業理念の浸透	24
02. コーポレート・ガバナンス	25
03. グループグローバルな活動の推進	26
04. ステークホルダーとの対話	26

コンプライアンス	
05. 汚職・贈収賄の防止	27
06. 法令等の遵守	28
07. 環境関連法令等の遵守	29

環境	
08. 環境負荷物質の漏出防止と低減	30
09. 事業上の環境負荷物質の低減	34

安全衛生	
10. 労働安全衛生	36

サプライチェーンマネジメント	
11. 紛争鉱物等への対応	37

人材・人権	
12. 人材の多様性確保	38
13. 人権の尊重 (人権デューデリジェンス含む)	39
14. 人材育成	39

顧客満足	
15. 品質の向上と顧客の安全・安心	40

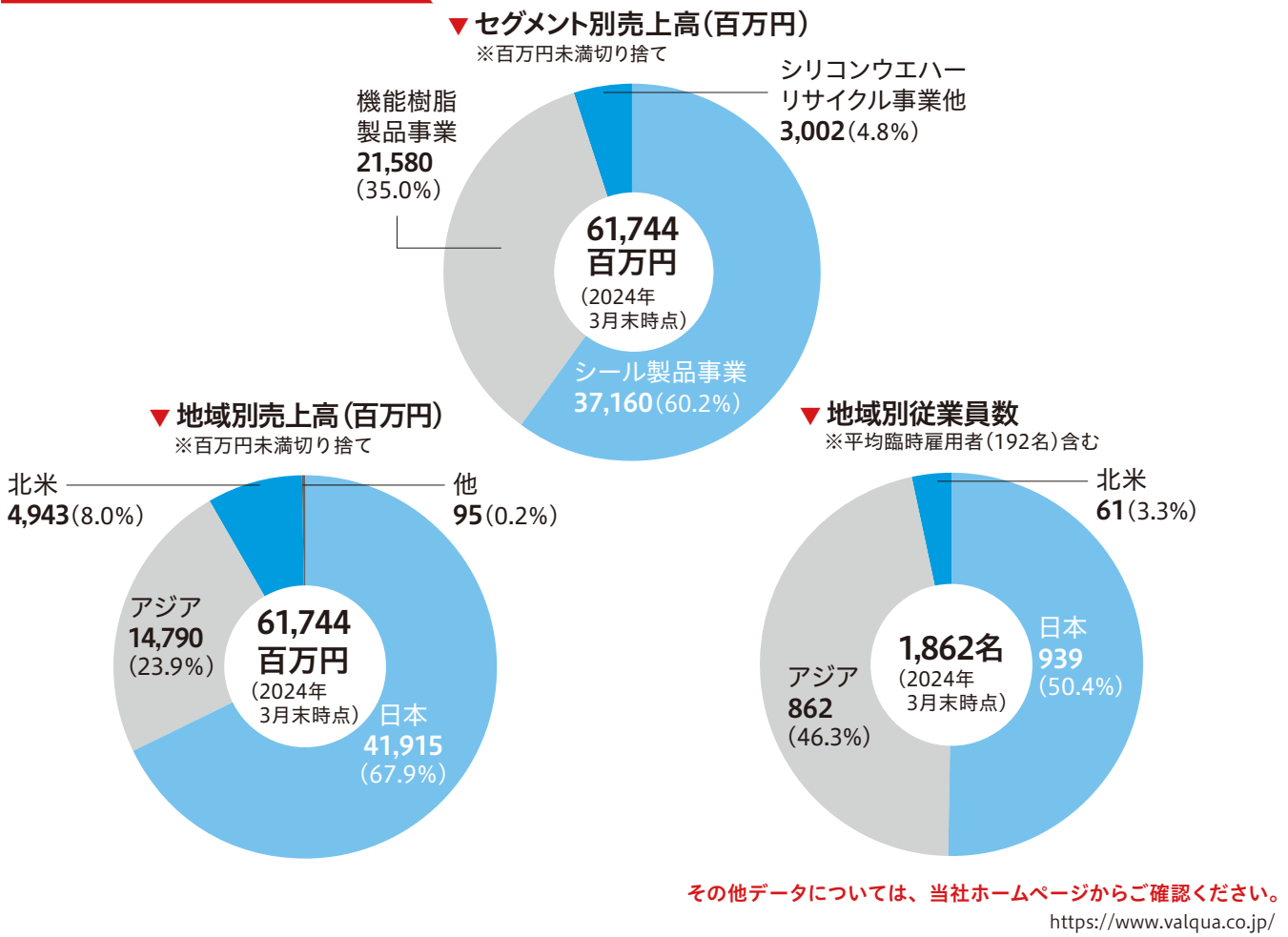
コミュニティ	
16. スポーツ・文化・芸術の振興 社員の心と身体の健康促進 地域社会との共生	41

編集方針	43
-------------	----

バルカーグループの事業概要

バルカーグループは、シール製品事業、機能樹脂製品事業、シリコンウエハーリサイクル事業などをグローバルに展開しています。

バルカーグループの事業



事業概要一覧

シール製品事業



主に、プラント・機器関連製品・エラストマー製品・自動車部品に係るシール製品の開発、生産、販売

バルカーグループの主力事業として、さまざまな産業向けに配管・機器用のシール材を提供しています。先端産業市場、また、機器市場やプラント市場向けに、DXによる新たな価値を提供していきます。

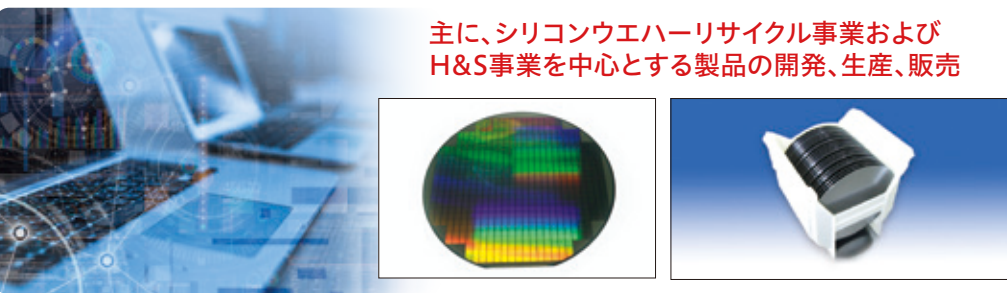
機能樹脂製品事業



主に、ふっ素樹脂製品を中心とする機能樹脂製品の開発、生産、販売

機能樹脂の優れた特性を活かして半導体装置・産業機械をはじめ多様な分野で使用されています。先端産業市場・プラント市場に向けた戦略製品を軸に、サプライチェーンの整備を図り、グローバルに価値を提供していきます。

シリコンウエハーリサイクル事業他



主に、シリコンウエハーリサイクル事業およびH&S事業を中心とする製品の開発、生産、販売

シリコンウエハーリサイクル事業などにより地球環境に貢献しています。H&S事業のさらなる進展により、新たな価値創造を具現化し幅広い産業に貢献していきます。

事業内容 産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴム等各種素材製品を設計、製造、加工および販売。ソフトウェアおよび情報機器の開発および販売、関連する電子商取引等インターネットを利用した各種サービスの提供、コンサルティング、エンジニアリングその他技術・ノウハウに関する事業

The history of VALQUA バルカーの歩み

1927 1月	自動車および高速機械用ブレーキライニングの製造・販売を目的として、大阪府に日本ブレーキライニング製作所を創立	1969 7月	合併会社、台湾バルカー工業股份有限公司を設立
1932 4月	日本バルカー工業株式会社を設立。工業用パッキンの生産を開始	1975 9月	東京証券取引所、市場第一部に株式上場
1941 6月	航空機用合成ゴムパッキン、ジョイントシートの製造を開始	1988 7月	合併会社、VALQUA INDUSTRIES (THAILAND), LTD.を設立
1952 2月	ふっ素樹脂の加工技術研究が完了、日本で最初の製品化。商品名を「バルフロン」として製造・販売を開始	1993 11月	奈良工場を新設。高機能ゴム製品の製造を開始
		1995 8月	上海バルカーふっ素樹脂製品有限公司を設立
		1998 6月	VALQUA AMERICA, INC.を設立

2000 3月	台湾バルカー国際股份有限公司を設立	2010 9月	ダイキン工業株式会社との事業・資本提携による中国業務拡充スタート
2000 12月	バルカーシール(上海)有限公司を設立	2011 12月	現・株式会社バルカー・エフエフティを買収し、連結子会社化
2002 9月	バルカー(上海)貿易有限公司を設立	2017 3月	現・バルカーNGCを買収し、連結子会社化
2004 3月	VALQUA KOREA CO., LTD.を設立	2017 11月	VALQUA INDUSTRIES SINGAPORE PTE. LTD.を設立
2006 1月	M・R・Tセンターを開設(東京都町田市)	2018 10月	商号を株式会社バルカーへ変更
2008 4月	VALQUA VIETNAM CO., LTD.を設立	2022 4月	東京証券取引所、市場第一部からプライム市場へ移行

VALQUA with Society

バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が
さまざまなところで活躍しています。

A 宇宙ロケット・人工衛星



メタル中空リング
宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高機能ガスケットで、ロケットや人工衛星の他、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

B 変電所



ふっ素樹脂加工品
高い絶縁性能を生かし、落雷の影響を無くす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。

C 携帯電話基地局（5G）



ふっ素樹脂基板
PTFEの優れた電気特性と耐候性を生かした基板材料がアンテナ機器周辺および自動運転にも使用され、安全・高速・大容量通信の実現に寄与しています。

D 建設機械



Oリング
静的・動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。



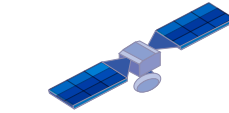
スラストプレート
ショベルカーなどのヒンジ可動部の隙間に組み込まれ、隙間調整、鳴き防止、カジリ防止などの役割を担っています。

E 自動車



オートマチックトランスミッション(AT)用ガスケット
ATを制御する油圧コントロール装置(バルブボディ)に使用されるガスケットで、装置内の油をシールすることにより滑らかに応答性の良い変速を行うために使用されています。

A 宇宙ロケット・人工衛星



MONiPLAT™

設備の定期点検と状態監視を一元管理可能な設備点検プラットフォーム。スマホとPCでラクラク定期点検/設備管理。

メンテナンス領域に おけるデジタルソリューション



VALQUA SPM™ SMART PLANT MANAGEMENT

プラントメンテナンスの計画、工事、検査、承認申請、データ保存、比較を日常保全から定修工事まで進捗を一元管理



F 化学プラント



ふっ素樹脂ライニングボールバルブ
化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。



ふっ素樹脂ガスケット
化学薬品に強い素材でできており、配管や機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。



ふっ素樹脂ライニング鋼管
化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、中を流れる流体の純粋性を保っています。

G ポータブルメディア



ふっ素樹脂テープ
高い絶縁性と優れた加工性を持ち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。

H シールエンジニアリングサービス

シールトレーニングセンター (STC)

バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジーをお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の確実な作動につなげています。シール材の選定や適切な使用方法についての座学と、現場の配管フランジを模擬した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を提供しています。



シールトレーニングピークル(STV)

シールトレーニングピークルは、ガスケット施工の教育に関する機器を搭載した出張講習車です。

I 製鉄プラント



高機能シートガスケット
従来の製品から耐熱性を大きく改善しており、さまざまな流体が流れる配管フランジのシール材としてプラントで活躍しています。

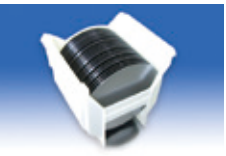


うず巻形ガスケット
金属材料を組み合わせた高強度のシール材で、高温・高圧で運転されるプラントの安全操業を支えています。



回転軸シール(LFR SEAL®)
摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。

J 半導体工場



再生シリコンウエハー
半導体製造装置の動作チェックなどで使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで研磨・洗浄し、新品同様に再生・提供することで、環境負荷低減に貢献しています。



ふっ素樹脂ライニングタンク
ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンクで、半導体製造で使用される超高純度の薬液の貯蔵に欠かせない製品です。



高機能エラストマー
不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。



ボンデッドゲートシール
高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。

K 船舶

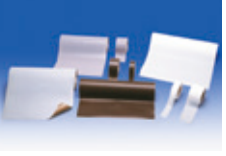


グランドパッキン
作動軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、主に流体の搬送や遮断といった機能を担う回転ポンプやバルブで使われています。



ふっ素樹脂ライニングISOコンテナ
化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、流体の純粋性を保ち目的地まで搬送します。

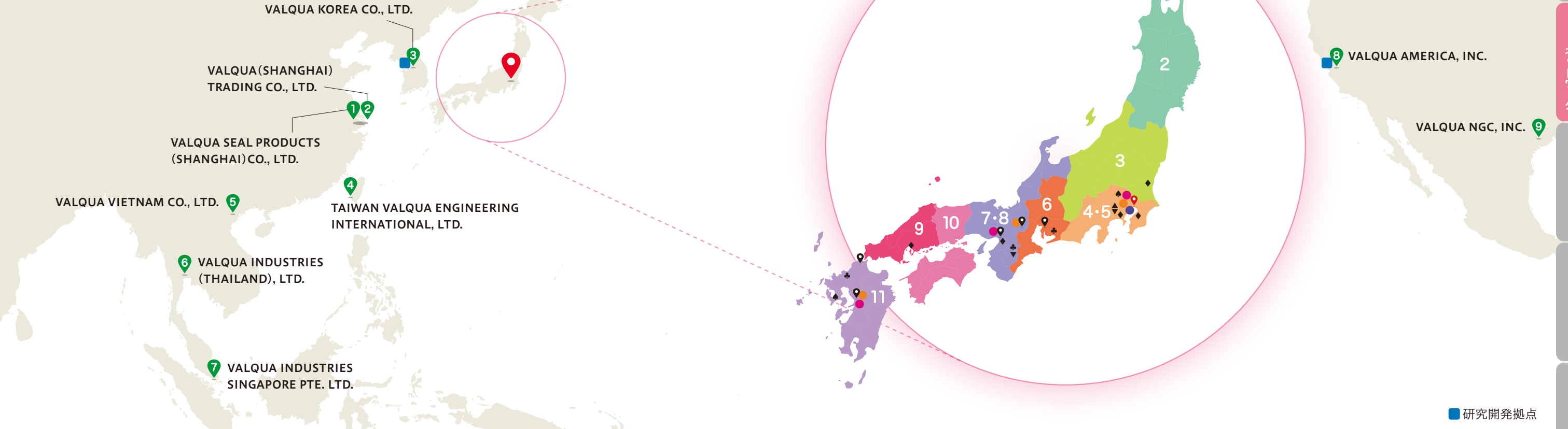
L 医療機関



ふっ素樹脂切削テープ
ふっ素樹脂を高次元技術で切削した気密性・摺動性に優れた製品で、注射器用滑栓などに使用されています。

VALQUA group network

バルカーグループ
ネットワーク



国内ネットワーク

- 本社 〒141-6024 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 24F TEL (03)5434-7370 / FAX (03)5436-0560
- 名古屋営業所 〒457-0013 愛知県名古屋市南区寺崎14-8 さくらビル24 TEL (052)811-6451 / FAX (052)811-6474
- 彦根営業所 〒522-0074 滋賀県彦根市大東町2-38 TEL (0749)26-3191 / FAX (0749)26-7503
- 大阪営業所 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町1-7-7 WAKITA堺筋本町ビル3F TEL (06)6265-5031 / FAX (06)6265-5040
- 北九州営業所 〒802-0003 福岡県北九州市小倉北区米町2-2-1新小倉ビル TEL (093)521-4181 / FAX (093)531-4755
- 熊本営業所 〒860-0822 熊本県熊本市中央区本山町218-5 TEL (096)364-3511 / FAX (096)364-3570

《営業部門》

■H&S事業本部

- ① 第1ブロック(北海道)
- ② 第2ブロック(東北)
- ③ 第3ブロック(北関東・信越)
- ④ 第4ブロック(南関東)
- ⑤ 第5ブロック(東日本カスタマーサービス)
- ⑥ 第6ブロック(中部)
- ⑦ 第7ブロック(北陸・関西)
- ⑧ 第8ブロック(西日本カスタマーサービス)
- ⑨ 第9ブロック(中国※宇部、中国、周南、広島)
- ⑩ 第10ブロック(中四国※岡山、松山)
- ⑪ 第11ブロック(九州)

●海外営業部

●高機能樹脂・製品本部

- 素材・フィルムグループ
- 加工品グループ
- ライニンググループ
- 調達グループ
- 彦根営業所 熊本営業所

●高機能シール本部

- 営業部(東京)
- 営業部(大阪)
- 営業部(熊本)

▲製造・研究開発・人材開発拠点

M・R・Tセンター

- 〒194-0215 東京都町田市
小山ヶ丘2-2-2
TEL (042)798-6770 /
FAX (042)798-1040

◆販売・製造拠点

- 株式会社バルカー・エフエフティ
(東京、長崎)

◆販売拠点

- 株式会社バルカーエスイーエス
(茨城、千葉)
- 株式会社バルカーテクノ
(東京、大阪、広島)

▼研究開発拠点

- 株式会社バルカー
(東京、奈良)

◆製造拠点

- 株式会社バルカー シール
ソリューションズ
(奈良)
- 九州バルカー株式会社
(福岡)
- 株式会社バルカー
メタルテクノロジー
(愛知)

海外ネットワーク

東アジア

- ① VALQUA SEAL PRODUCTS(SHANGHAI)CO., LTD.
- ② VALQUA(SHANGHAI)TRADING CO., LTD.

Location: Shanghai

- ③ VALQUA KOREA CO., LTD.

Location: Seoul

- ・ULSAN OFFICE
Location: Ulsan
- ・PYEONGTAEK FACTORY
- ・APPLIED R&D INSTITUTE

Location: Gyeonggi-do

- ④ TAIWAN VALQUA ENGINEERING INTERNATIONAL, LTD.
- ・STSP Branch

Location: Kaohsiung City

- ・HSINCHU OFFICE
Location: Hsinchu City

アセアン

- ⑤ VALQUA VIETNAM CO., LTD.
- ・HAI DUONG FACTORY

Location: Hai Duong Province

- ⑥ VALQUA INDUSTRIES(THAILAND), LTD.

Location: Samutprakarn

- ・RAYONG BRANCH
Location: Rayong
- ⑦ VALQUA INDUSTRIES SINGAPORE PTE. LTD.

Location: Singapore

北米

- ⑧ VALQUA AMERICA, INC.
- ・ADVANCED SEAL TECHNOLOGY INSTITUTE

Location: Sunnyvale, CA

- ⑨ VALQUA NGC, INC.

Location: Houston, TX

特集1：新組織体制の紹介



代表取締役会長CEO 瀧澤 利一 取締役副会長 本坊 吉博 取締役副社長 中澤 剛太 代表取締役社長COO 兼 CWO 瀧澤 利治

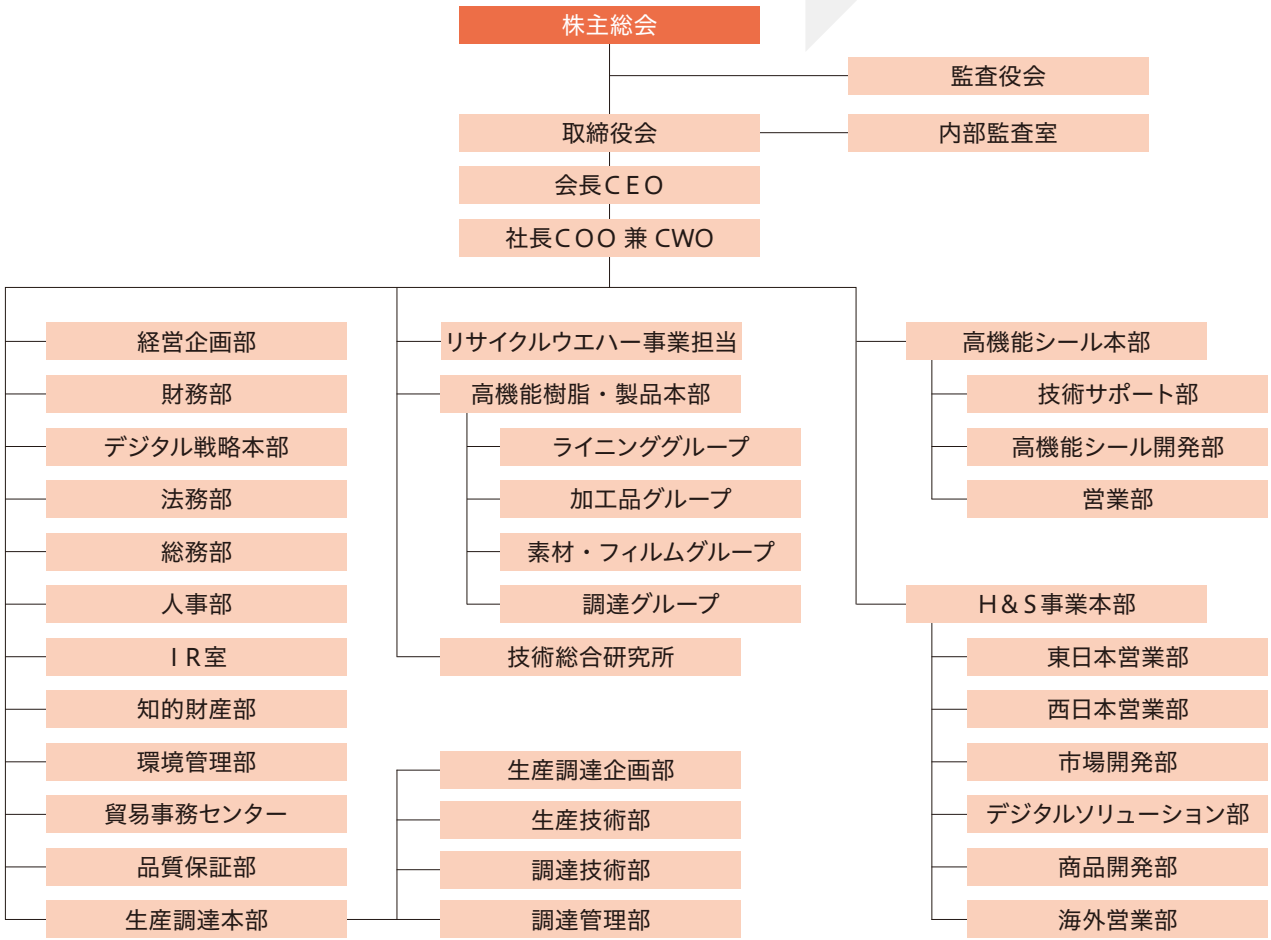
バルカーは、中期経営計画“New Frontier 2026”（NF2026）の推進のため、そして創業100周年期である2027年3月期における長期経営目標の達成をより確かなものとするため、2024年6月20日付で組織体制を変更いたしました。引き続き「新たな価値創造」の実現に向けて最適な組織や制度への改革に取り組み、グローバルでの差異化や持続的な競争力の強化を実現していきます。

役員一覧（2024年6月20日現在）

役 職	氏 名	担 当
代表取締役会長	瀧澤 利一	CEO
代表取締役社長	瀧澤 利治	COO 兼 CWO
取締役副会長	本坊 吉博	
取締役副社長	中澤 剛太	CDO 兼 経営全般補佐 兼 H&S事業・リサイクルウエハー事業担当
社外取締役	関根 近子	
社外取締役	齊藤 三希子	
社外取締役	沓澤 浩也	
常勤監査役	高 昭夫	
社外監査役	高橋 秀法	
社外監査役	戸井川 岩夫	
上席専務執行役員	櫻井 慎也	高機能シール本部長
専務執行役員	青木 睦郎	知的財産・品質保証担当
専務執行役員	椿山 善昭	総務部長
専務執行役員	神田 大輔	高機能樹脂・製品本部長
常務執行役員	小川 禎	会長CEO担当秘書長
常務執行役員	谷田部 麻美子	CCO 兼 法務・環境管理担当
常務執行役員	植木 聡	経営企画部長 兼 IR室・貿易事務担当
常務執行役員	伏屋 克俊	生産調達本部長 兼 生産調達企画部長 兼 安全担当
常務執行役員	小野 幹仁	H&S事業本部長
執行役員	立田 寛	総務部副部長 兼 T.V.W.推進担当
執行役員	野邊 淳嗣	高機能樹脂・製品本部副本部長
執行役員	今井 将廣	H&S事業本部副本部長 兼 西日本営業部長
執行役員	後藤 智子	人事部長 兼 人材開発担当
執行役員	門脇 貞幸	財務部長
執行役員	村上 良太	生産調達本部副本部長 兼 アセアン統括 兼 バルカーベトナム社長
執行役員	能勢 正章	技術総合研究所長
執行役員	川上 孝弘	デジタル戦略本部長 兼 デジタル開発部長

※CEO=最高経営責任者
※COO=最高執行責任者
※CWO=最高ウェルビーイング責任者
※CDO=最高デジタル責任者
※CCO=最高顧客責任者

組織図



社長COO 兼 CWOメッセージ

2024年6月に社長COO 兼 CWOに就任いたしました瀧澤利治です。
当社は1927年の創業以来、「縁の下の力持ち」として、あらゆる産業の発展を支えてまいりました。社名のバルカーは、バリュー＆クオリティーの造語、つまり質の高い仕事を通じて世の中に新しい価値を生み出し続けるという、皆様へのコミットメントだと考えております。創業以来築いてきた有形・無形の資産、そして企業理念であるTHE VALQUA WAYを受け継ぎつつ、これからも社会の安全安心と変革に貢献し続けるため、変化を恐れることなくチャレンジを続けてまいります。
2027年に迎える創業100周年とその先に向けて、当社ならではのパイオニア精神を磨き続け、全てのステークホルダーの最高満足を目指し邁進いたします。引き続き当社グループへの変わらぬご指導とご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



特集2：成長のNext stage

“安心・安全で持続可能な未来”に貢献するために。 「THE VALQUA WAY」に根ざしたH&S企業への変革

バルカーでは、安心・安全で持続可能な社会の実現を目指し、2014年から製品（Hard）とサービス（Seal Engineering Service）の両輪で新たな顧客価値を創造する『H&S企業』への変革を推進しています※。

私たちの原点である企業理念『THE VALQUA WAY』のもと、次の100年につながる挑戦の軌跡と当社の未来についてお届けします。

※Hはハード（当社の既存製品・商品）であり、Sはソフトを含むサービス（シールエンジニアリング）を表します。

Interviewees

H&S事業本部 デジタルソリューション部 副部長 坂井 重夫	技術総合研究所 副所長 油谷 康
--------------------------------------	---------------------

原点は「安心・安全」への想い H&S企業への経営の転換

当社は1927年の創業以来、シールエンジニアリングのパイオニアとして長年にわたりプラント、半導体、産業機器市場などの幅広い分野にガスや液体などの漏洩を防ぐ「シール製品」を通じて、多くのお客さまに安心・安全を提供することに取り組んできました。バルカーでは現在、“新たな価値を創造し続ける企業”として、製品とサービスを融合して提供する「H&S企業」への経営の転換を進めています。

「根底にあるのは、バルカーの企業理念『THE VALQUA WAY』に根ざした、現場の安心・安全にさらに貢献していくという強い想いです。高い品質で多くの顧客から信頼をいただいている当社だからこそ、提供できるサービスがある。単に『モノを売っておしまい』ではなく、長く培ってきた知識やノウハウを活かしたサービスを国内外に提供することで、社会が求める安心・安全を支え、新たな顧客価値を創造

していく。それがH&S企業として目指す未来です」（坂井）

モノからコトへ。2018年に発表した「日本バルカー工業」から「バルカー」への社名変更は、これからはハードの製造だけにとどまらないH&S企業への変革を推進していくという経営層の想いと決意表明でもありました。

「熟練の技」を属人化させない ソリューションに着目

まさに一大転換期ともいえる変革には、“産みの苦しみ”も伴います。

「H&S企業への変革を進める上で、安心・安全をどう具現化するかという議論がありました。バルカーが提供すべきS（＝サービス）とはなにか、具体的な方法論がなかなか出てこない。そのなかでプラント施工時にさまざまなトラブルが起こりうるもの、例としてはガスケットの選定や液体などが漏れないように正しく取り付ける手順などが挙げられますが、これらの知識をきちんと教える場はあるのだろうか。一方で、昨今の人手不足に加え、高齢化による熟練工の高度な施工技術が失われようとしている課題もある。以前は

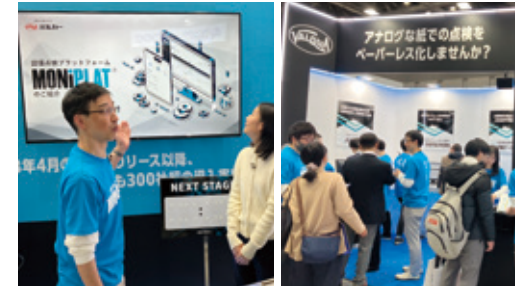
どこの現場にも長年の勘と経験で全て判断できるようなベテランの職人がいましたが、そうした熟練工が減っていることで“現場の素人化”が進むのではないかと懸念も広がっていた。それならば、我々が高度な施工技術の継承や教育の場を提供してはどうか—— こうして生まれたのが、体験型研修施設『STC（シールトレーニングセンター）』です」（坂井）

STCが可能にしたのは、職人が勘と経験で教えていた技術の“視覚化”です。お客さまからのヒアリング内容と当社が長年培ってきたノウハウを組み合わせ、最も効果的な教育プログラムを構築した

STCは、お客さまの安心・安全を担保するソリューションとしてすでに国内外で活用されています。

また、センシング技術やAIを駆使し、“ヒューマンエラーの抑制”と“誰でも正確に作業ができる”ことを目的とした自動締結工具や隙間測定器などのIoT化工具の開発にも注力。

「研修施設で“人を育てる技術継承”を行い、デジタル技術で“施工品質の均一化”に貢献する。H&Sで当社が果たすべき使命と方向性が明確になっていきました」（油谷）



展示会ブースでのMONiPLAT®プレゼンテーション



体験型研修施設 STC（シールトレーニングセンター）の外観と実習イメージ
（左：現場模擬締結実習イメージ、中：STC外観、右：実習装置の一例）

ハードとソフトの違いから 生まれた社員間のギャップの壁

社内で取り組みが活発化する一方、経営層もさらなるH&Sの土台作りに着手。2021年、現・副社長である中澤がCDO（Chief Digital Officer＝最高デジタル責任者）に就任すると、デジタル分野の企業と資本提携を結ぶなど、いよいよ本格的なソフトウェア開発のフェーズへと入っていきます。そこで再びぶつかったのが「社内の意識改革」という壁でした。「いちばん苦労したのは、ハード製品と

ソフト製品の違いです。ハード製品は故障、不具合がないように完成品として市場に出しますが、ソフトウェアはリリースしてから継続的な改善を行い、アップデートしていくのがあたりまえ。そのプロセスは真逆と言ってもいいほど異なります。その柔軟性や拡張性こそがソフトウェアの利点ですが、これまで完成度を追求してきた社員にとっては、『本当にこれでいいのか？』と戸惑いの方が大きかった」（油谷）

こうしたギャップや温度差を埋め、意識改革を進める原動力になったのは“お客さまの反応”でした。

「我々が開発したソフトウェアに対してフィードバックが届き、そのニーズを形にすることでファンになってくださる。キャッチボールをしながら顧客関係を深めていく手応えを体感するうちに社内の意識がどんどん前向きに変わってきました」（坂井）

設備点検プラットフォーム 「MONiPLAT®」が拓く未来

そんなバルカーの代表的なソフトウェア製品が、昨年4月にリリースした「MONiPLAT®（モニプラット）」です。

「MONiPLAT®は、スマートフォンやタブレットでさまざまな設備を一元管理できる、設備点検・状態監視のクラウドシステムです。現場で行われているアナログな紙での点検業務をデジタル化することで人的ミスの削減や大幅な業務効率化を実現します」（油谷）

リリースから3ヶ月後、思わぬ朗報が届きます。

「当初のターゲットである製造業に留まらず、食品や運輸、建設、農業、医療、介護など我々が想定していなかった業界からの引き合いもどんどん増えていったのです。我々も驚きました」（坂井）

発売からわずか1年で、導入社数は約600社超。「MONiPLAT®」がもたらしたインパクトは、新たな顧客を開拓し、H&S

の可能性をさらに大きく広げました。

また、プラント定修工事・検査を支援する施工管理システム「VALQUA SPM®」にも注力しています。

「こちらですでに大手プラント企業様に導入いただいています。MONiPLAT®が製造業向けの製品なら SPM®は石油化学業界における現場に最適化したソリューションをオーダーメイドで提供できる点が魅力です」（坂井）

「THE VALQUA WAY」のもと、 持続可能な社会を実現していく

年間500件以上起こっているといわれる石油精製、石油化学プラントでの液漏れの事故。それらを抑制できれば、土壌汚染や人的被害を未然に防ぐことにもつながります。

「それは、食品や医療などの製造現場にも通じる。安心・安全を通して持続可能な社会の実現に貢献できることは、我々のモチベーションであり、大きなやりがいです」（油谷）

バルカーでは、先の中期経営計画NF2023に続き、4月から2027年の創業100周年に向けた3か年中期経営計画においてもH&S企業への変革をさらに進め、企業理念である「THE VALQUA WAY」に根ざした高品質なもののづくりとソリューションの提供を一層強化していく予定です。「長年蓄積してきた技術やノウハウを持ち、“現場を知る”我々が作るからこそ、本当にお客さまが必要とするS＝サービス

を提供できる。今後も社会課題を解決する製品やサービスの提供を通して安心・安全に寄与していきたい」（坂井）

あらゆる産業の安心・安全に欠かせない企業として持続可能な未来に貢献することが、結果的に事業成長や収益の向上にもつながっていきます。H&S企業としての新たなステージと、バルカーの未来にご期待ください。

特集3：人材育成

バルカーが目指す「人的資本経営」の現在地と未来

近年、持続的な企業成長の指標の一つとして注目されている人的資本経営。当社でも中期経営計画“New Frontier 2023”(NF2023)において人材育成の加速を掲げている通り、さまざまな取り組みを推進しています。バルカーがどのようなビジョンで人材育成を行っているのか、最新トピックとともに人的資本経営の現在地と未来をお伝えします。

後藤 智子
執行役員
人事部長 兼 人材開発担当



創業から変わることのない、「人」を大切にする精神

創業以来、高い技術力を強みに産業を支える「ものづくり」に取り組み、グローバルに新たな価値を提供し続けてきたバルカーにとって、「人」は最も重要な財産です。私たちの企業活動のベースには従業員共通の企業理念である「THE

VALQUA WAY (T.V.W.)」があり、それは人材育成にも深く根づいています。国籍・年齢・性別・経歴を問わず、やる気とスキル、能力のある人を積極的に登用していくのが当社の方針です。「T.V.W.」のもと、全ての従業員一人ひとりが仕事に誇りを

持ち、自分の可能性を広げられるよう挑戦できる環境を提供していく。「人」を大切にするバルカーの人材育成はCEO瀧澤の人材への強いコミットメントのもと、今後もさらに強化していきます。

次世代に向けて「経営人材」を育てる中長期的な取り組み

バルカーの人材育成は、「T.V.W.理解と実践活動」を基本に、選抜研修、基盤研修、機能別研修、OJTで構成されており、「T.V.W.」の浸透推進活動はCEO自らが従業員と対話をするCEOラーニングなど、経営トップも深く人材育成に関わっています。例えば、CEOの直轄プログラムである「CEO塾」は役員候補の研鑽と選抜を目的として10年以上前から続けています。また、近年注力しているのが企業の持続的な成長と社会的価値を牽引する人材の輩出を目的とした2つの選抜研修による「経営人材の育成」です。

2023年から新たにスタートした「生産

会社経営者育成研修」は、バルカーのものづくりの要である生産会社の経営をリードし得る人材を対象に、「生・販・技」に精通した経営者候補を育てる選抜研修です。2年間の研修修了後すぐに経営を担う【即戦力型チーム】と、3年かけてじっくり育てる【将来投資型チーム】に分け、国内外の現場を知る機会も作り、生産の担当役員と共に、座学に留まらない実践的な研修プログラムを構築。「現場を経験しながら学ぶ」という考えのもと、即戦力型であれば研修中に生産会社の社長や副社長に就任し、実際に経験を積むなどアグレッシブな取り組みを行っています。

2つめの選抜研修である「海外経営幹部養成研修」は、次世代の現地法人の経営幹部候補の育成を目的としています。海外の経営人材育成については早い時期から取り組んでおり、本研修も今年で5期目を迎えます。候補者は全て世界各地から選抜された現地スタッフ。第4期生はベトナム、台湾、韓国の3カ国から選ばれた7名のメンバーで、経営者マインドや必要なスキルを学び、各国の拠点で経営幹部としての役割を果たしています。今期も3カ国6名を選抜し、研修プログラムを開始しています。

「THE VALQUA WAY」に根ざしたバルカーの人材育成

次世代のバルカーを牽引していく有望な人材を選抜し、複数のストレッチ職務を経験させ、昇進させていく。その理由は、経営や事業の知識を身に付け、リーダーシップを強化するには、「実践の場」で経験を積むことが最も効果的であるためです。両研修ともCEOをはじめ、経営層と直接対話する機会を多く作り、研修を通してバルカーのビジョナリー経営に対する理解を深め、経営者としての覚悟や信念が育まれていきます。

また、グローバル経営における課題として、日本の本社が策定したビジョンや経営方針が海外現地法人において十分に徹底されないことが挙げられますが、当社の場合、「T.V.W.」が人材教育の中心にあるため、そこでのギャップがありません。「T.V.W.」は従業員の共通言語であり、羅針盤であり、行動指針です。8つの国と地域にわたるバルカーグループ従業員一人ひとりが、自らの業務にそのマインドを落とし込み、個々の成長の礎として目標を共にできる「T.V.W.」の存在は、人材育成においても当社の大きな強みであり、他社との差別化要素でもあると考えています。

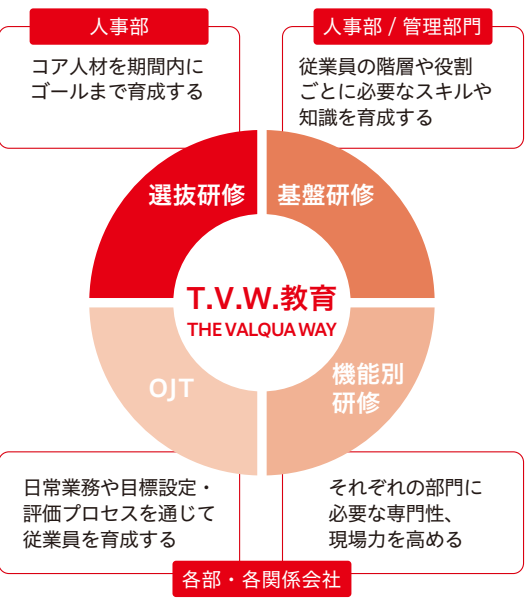
エンゲージメント向上を促進「技能グランプリ2024」を開催

当社では、多様なバックグラウンドを持つグローバルな仲間が共に切磋琢磨するさまざまな社内施策も開催しています。ものづくり企業として、持てる能力を遺憾なく発揮できる環境を作り、エンゲージメント向上とともに、技術者同士のモチベーションの醸成や連携強化につなげたい。そんな想いから生まれたのが「バルカー技能グランプリ」です。これまで、個別の事業本部や生産部門内での取り組みはありましたが、全社を挙げての初めての企画です。勝ち負けを競うだけではなく、世界各地のローカルなメンバーが一堂に会し、互いに良い刺激を与え合う機会として、さらには参加者が得た知識や経験を現場に持ち帰り、新たなイノベーションや成長につながることを期待しています。

企業の原動力は「人」。人的資本に投資する価値

人材の価値を引き出し、高めることによって、企業成長の持続的な向上を図ることは、バルカーの未来を創る上で最も重要な要素です。会社がさまざまな成長機会を提供し、従業員が持てるポテンシャルを十分に発揮して会社に貢献しながら自己実現を達成する、その好循環こそが潜在能力を引き出し、ひいては組織の発展への原動力になると私たちは考えています。そのために、今後も当社の価値観に共感してくれる人材の獲得と育成、一人ひとりのキャリアプランに応じた人材開発、ウェルビーイングの向上につながる人的投資を行ってまいります。

▼ 当社における人材開発・育成



特集3：人材育成

生産会社経営者育成研修

育成ゴール

生・販・技までの総合的なメーカーの経営者育成を目的とし、固定概念に囚われぬ発想・想像力でバルカーのビジョンを描き、組織をけん引する人間力を備えた生産会社の経営を担う人材（関係会社を任せられる人材）を育成します。

対象者

次期の経営者育成【即戦力型】：部長相当職（5名）
将来の経営者育成【将来投資型】：課長相当職（7名）

研修期間（第1期）

次期の経営者育成【即戦力型】：2023年7月～2025年6月（2年間）
将来の経営者育成【将来投資型】：2023年7月～2026年6月（3年間）



▲ 研修風景



▲ 瀧澤CEOと即戦力型コースのメンバー



生産会社経営者
育成研修
【即戦力型】
内藤洋介

本研修に管理部門（人事部）出身としては唯一選抜され、研修を通して、自分の内に眠っていた可能性に気づき、その発見に喜びと驚きを感じました。従業員にとって、研修は単なる業務の向上だけでなく、心の充実やモチベーションの維持にも欠かせないもので、組織が従業員の成長を支えることで、強固な結束力を生み出し、目標達成に向けて前進する強い力が生まれてくるのだと考えています。ウェルビーイング経営を担う経営者となれるよう、従業員がより活き活きと働き続けていくことができる環境を作っていきたいと考えています。



生産会社経営者
育成研修
【将来投資型】
橋本勇人

製造課長としてQCDSの追求に取り組むなか研修の機会を頂き、経営者としてのスキル・責任や覚悟・「組織を変えられるのはリーダーだけである」ということを学びました。企業理念T.V.W.の浸透を基軸に、自分自身が活き活きと仕事を楽しむことを忘れず、従業員との対話や一緒に大きな課題にチャレンジするプロセスを重視した人材育成や、遣り甲斐・ワクワク感がある「働き続けたい」環境作りに取り組んでいます。従業員に「一緒に働きたい!」と思われるような、人間的にも魅力があり組織を牽引できる経営者を目指します。

海外経営幹部養成研修

育成ゴール

次世代の現地法人の経営幹部または経営幹部候補者になりうる人材の養成を目的とし、会社経営視点に立って物事を判断し、関係者を巻き込み、迅速・確実に組織を動かす力がある人材を育成します。

対象者 海外（台湾、韓国、ベトナム）の経営幹部候補（6名）

研修期間（第5期） 2024年5月～2026年4月（2年間）



海外経営幹部
養成研修
商 志偉

現職での3年半は部員の育成に努め、手ごたえを感じていました。しかし、台湾バルカー国際が全体的に成長していかないと、自分のミッションである幸せな職場を作ることができないと意識しました。そのためには、牽引する立場として、自分がもっと成長しなければなりません。これから2年間の研修により、バルカーのビジョナリー経営をより深く理解できると信じ、経営者角度から物事を対処し、会社全体により影響を与えられる人物に成長し、幸せな会社作りを目指して、継続的にチャレンジしていきたいと思っています。

CEO塾

育成ゴール

人間力が備わった革新的な人材の育成として、固定概念に囚われぬ発想・想像力でバルカーのビジョンを描き、組織をけん引する人間力を備えた役員を担える人材を育成します。

対象者 経営幹部社員（5名）

研修期間 2023年12月～2025年11月（2年間）



CEO塾
畑本 雅史

CEO塾生は、受講者という姿勢ではなく、2年間で与えられたテーマについて考え抜き、自らの「革新力」と「人間力」を磨き、視座を高める場と認識しています。議論の活性化は私達塾生次第であり、日々自らと向き合い、塾生同士で議論し、互いに刺激し合っています。大変革時代の中、100周年とその先の未来に向けて、会社をより良くステークホルダーに対しウェルビーイング経営を実現したい。その実行は私達の世代が担うという想いを胸に、T.V.W.を新たな視点で解釈し行動に移していきたいと考えています。

バルカー技能グランプリ

開催目的

エンゲージメントの向上や技能者の離職防止および関係各社の連携強化等を目的としています。

本大会はバルカーグループ初めての取り組みです。

開催コンセプト

バルカー100周年、さらにその先に向かってバルカーパーソンがベストを尽くし、互いに競い合い、未来へ継承する技能の礎を築く文化を目指します。



技能グランプリ結果報告

2024年5月、台湾バルカー国際にて第一回バルカー技能グランプリが開催され、世界中のバルカーグループ生産会社9社から選抜された技能優秀者28名が一堂に会し、高度な技術や正確性、スピードを競いました。

本大会は、バルカーが実践する「ウェルビーイング経営」の一環として、組織活性度・エンゲージメントの向上実現を期待して開催されました。瀧澤CEOをはじめとする役員が見守り、各社の応援団がリモートで声援を送るなか、バルカーのものづくりを支えるその熟練した技と、その積み重ねた努力に対し、大きな拍手が送られました。

HPS(高機能シール製品)
外観検査技能競技

半導体市場向けに厳しい検査基準を設ける高機能シール製品の不良発見能力と不良事象の検出力を競います。



PFA(フッ素樹脂)溶接技能競技

ライニングタンク製造工程の一つである、タンクの中に入ってシートとシートをPFA溶接する作業を競います。



ボルト締め技能競技

工場配管の継ぎ手部分などに多く使われるボルトは、正確に締め付けなければ有効に働きません。所定の本数を、決められた圧力まで締め上げるスピードを競います。



フォークリフト運転技能競技

スキルを持った資格取得者が、所定のコースを安全かつ正確に、そして効率よく運搬する運転技能を競います。



▲ 瀧澤CEOによる開会挨拶



▲ 集合写真

サステナビリティ マネジメント

バルカーグループは「サステナビリティ」を重要な経営課題と位置付け、
企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、人類の豊かさと地球環境に貢献するため
「VALQUA Sustainable Action」(バルカー サステナブル アクション) を着実に実行していきます。

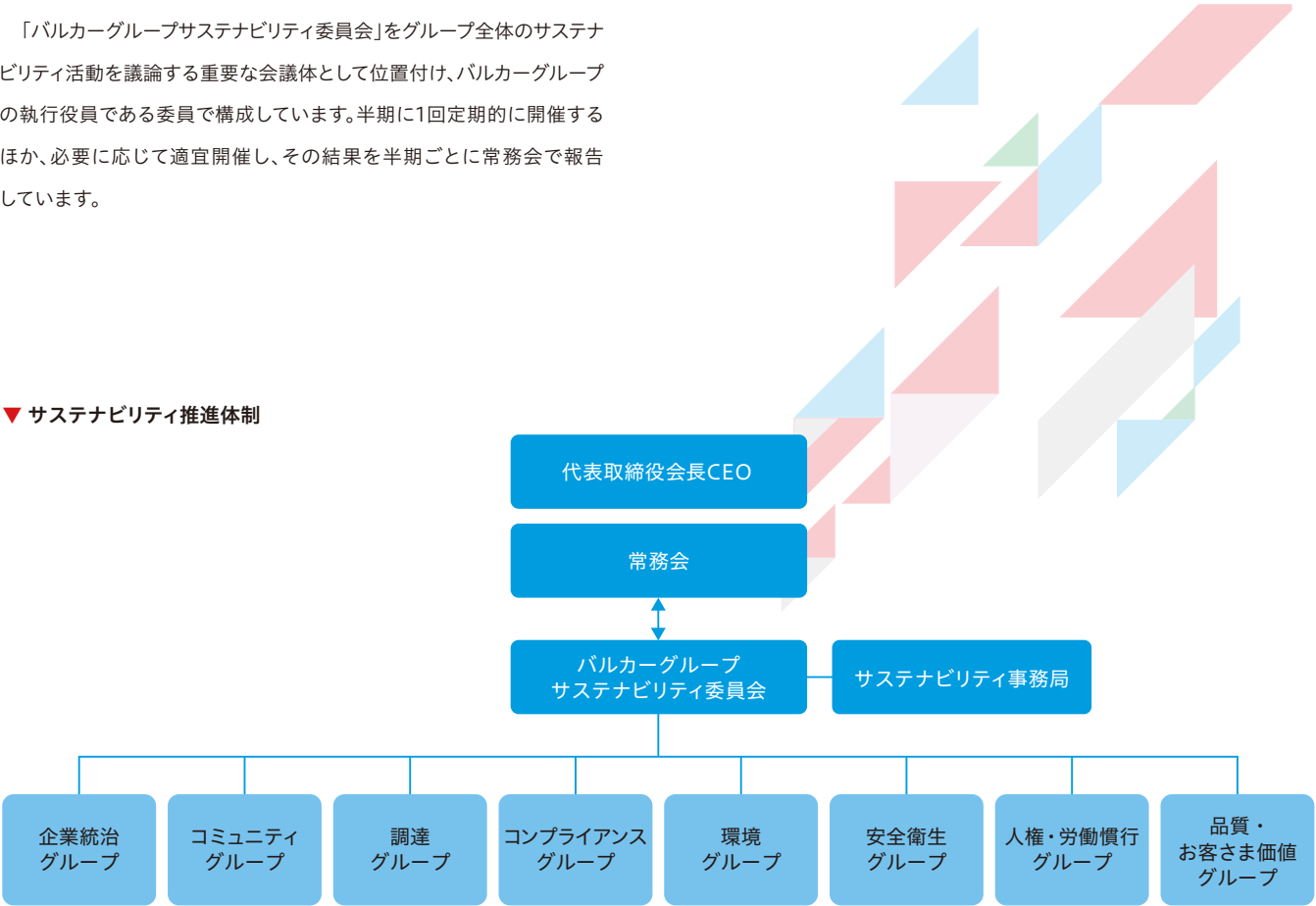
バルカーにとってのサステナビリティ

バルカーグループはサステナビリティを、【企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、健全で持続的な成長と持続可能な社会を実現すること】と考えています。
バルカーグループは、これからも、人類の豊かさと地球環境に貢献するために、事業活動を通してサステナビリティ活動を推進し、「価値の創造と品質の向上」を追求し続けていきます。

サステナビリティ推進体制

「バルカーグループサステナビリティ委員会」をグループ全体のサステナビリティ活動を議論する重要な会議体として位置付け、バルカーグループの執行役員である委員で構成しています。半期に1回定期的に開催するほか、必要に応じて適宜開催し、その結果を半期ごとに常務会で報告しています。

▼ サステナビリティ推進体制



CSRからサステナビリティへ

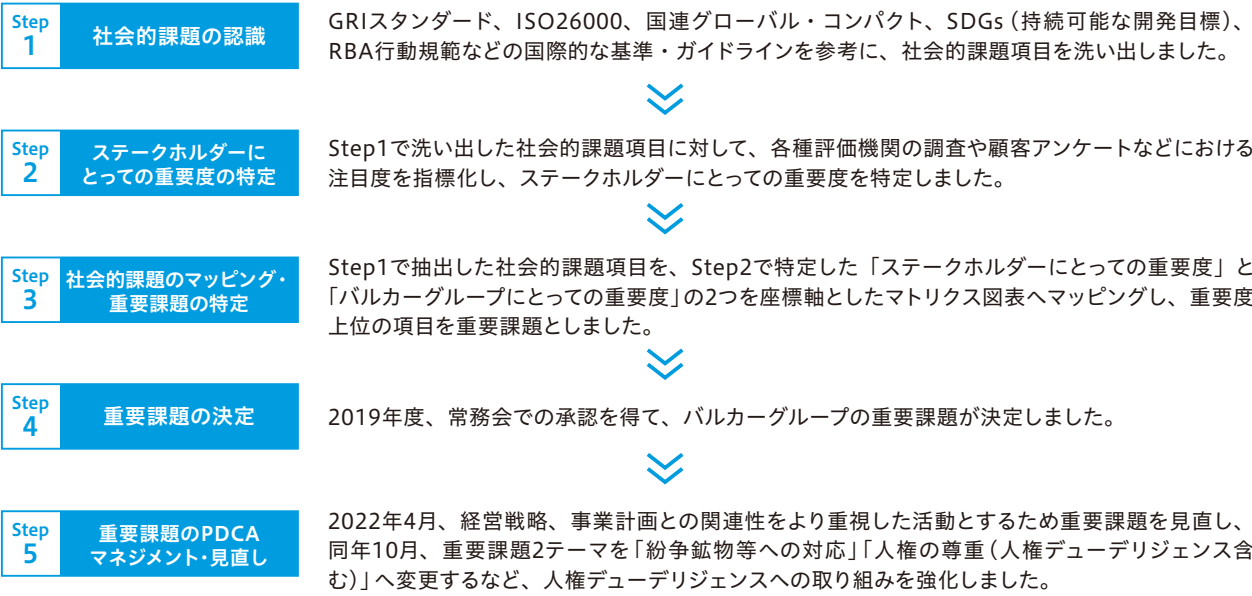
2022年4月、サステナビリティ活動を加速するため、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、推進体制を「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称を変更して体制を強化しました。また、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「VALQUA Sustainable Action」とし、次の活動を進めています。

- 1. サステナビリティ経営に資する重要課題の見直し
- 2. 重要課題ごとの具体的な目標設定と進捗管理
- 3. サステナビリティレポート等を通じた経営戦略とつながるサステナビリティ活動状況の開示拡充

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の特定

バルカーグループは、当社グループに関わる社会的課題項目を抽出し、「ステークホルダーにとっての重要度」と「バルカーグループにとっての重要度」の両面でマテリアリティを特定しました。それぞれのマテリアリティごとの目標を設定し、取り組んでいます。

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の特定プロセス



社会的課題のマッピング

ステークホルダーにとっての重要度	◆本業(H&S事業)を通じた社会的課題の解決 ●経営基盤の強化 ■社会貢献活動		
	●良好な労使関係づくり	●事業上の環境負荷物質の低減	●企業理念の浸透 ●グループグローバルな活動の推進 ●環境関連法令等の遵守 ●法令等の遵守 ◆環境負荷物質の漏出防止と低減 ●労働安全衛生
	●ブランド管理 ●重要課題の設定とサステナビリティマネジメント	●人材の多様性確保 ●人権の尊重(人権デューデリジェンス含む) ●紛争鉱物等への対応	●コーポレート・ガバナンスの強化 ●ステークホルダーとの対話 ●汚職・贈収賄の防止 ●人材育成 ◆品質の向上と顧客の安全・安心 ■スポーツ・文化・芸術の振興/地域社会との共生
	■生物多様性の保全 ●公正なマーケティングおよび情報提供 ●情報セキュリティの強化	●ESG情報の開示と信頼性向上 ●リスクマネジメント(BCM・BCP)	●サプライチェーンマネジメント ●公正な取引

バルカーグループにとっての重要度 >>

※各象限内での重要度に違いはない

サステナビリティ重要課題

バルカーグループでは、現在、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、環境、安全衛生、サプライチェーンマネジメント、人材・人権、顧客満足、コミュニティの8つを重点領域とした、16の重要課題を設定し、重要課題に沿った具体的かつ積極的な取り組みを推進しています。

2022年10月、人権デューデリジェンスを意識した活動とするため、重要課題2テーマを変更し、「紛争鉱物等への対応」「人権の尊重(人権デューデリジェンス含む)」としました。

重要課題		何故・何のために	基本的な方針	主な取り組み	貢献するSDGs
コーポレート・ガバナンス	01.企業理念の浸透	企業理念を中心にしたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指すため	企業理念「THE VALQUA WAY」を中心にしたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指す	1)「THE VALQUA WAY」のグループ全体への浸透活動 2)「THE VALQUA WAY」理解と実践活動 階層別全社大会の開催 3)社内外へのビジョナリー経営の周知活動	3 3 7 8 9 12 17
	02.コーポレート・ガバナンスの強化	社会的責任を果たすための有効な意思決定の仕組みを持つことが重要であるため	「THE VALQUA WAY」のもと経営体制を構築し、その充実に努める	グローバルガバナンス体制の強化と、情報開示拡充のための取り組み	
	03.グループグローバルな活動の推進	グローバル展開の進展により、多様なバックグラウンド・価値観を持つ従業員が増える中、グループ全体で一体感をもった事業活動とするため	グループ全体で「THE VALQUA WAY」の行動指針10項を具現化を図り、事業継続性の強化、およびグローバルな社会的課題の解決につなげる	グループ全体でのサステナビリティ活動の強化、および情報開示拡充への取り組み	
	04.ステークホルダーとの対話	建設的な対話による相互理解を深め、それを当社の企業価値の向上に繋げるため。 あるいは、共通の社会的課題の解決を図るため	さまざまなステークホルダーとの対話を通じて「THE VALQUA WAY」行動指針10項を具現化し、それを自社の企業価値の向上、事業継続性の強化、社会的な課題解決につなげる	さまざまなステークホルダーとの建設的対話の実施	
コンプライアンス	05.汚職・贈収賄の防止	贈収賄防止はもとより疑義が生じる行為も防止するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	汚職・贈収賄の防止を含むリスク・コンプライアンス強化と、情報開示拡充のための取り組み	12 12
	06.法令等の遵守	社会的責任を果たし、期待に応えていくために、コンプライアンス経営の徹底を図るため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	法令遵守の実効性をさらに高めるための取り組み、開示拡充のための取り組み	
	07.環境関連法令等の遵守	年々強化される環境汚染防止の法令違反による事業活動への影響を回避するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	環境リスク・コンプライアンス遵守の徹底	
環境	08.環境負荷物質の漏出防止と低減	高度な技術を生かし、環境負荷物質低減につながる製品やサービスで低炭素社会の実現に貢献するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、社会的課題解決に資する製品や技術を提供する	環境汚染対策など社会的課題解決のための製品、サービスの開発と展開	7 8 9 12 17
	09.事業上の環境負荷物質の低減	モノづくり企業として社会的責任を果たすため、環境に与えるマイナスの影響を最小化する事業活動を行うため	行動指針の「資産の保全と有効活用」のもと、環境資源を考慮した活動を行う	事業上排出される環境負荷物質の低減活動	
安全衛生	10.労働安全衛生	健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整え、従業員の幸福と事業の発展へつなげるため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、働きやすい環境をつくる	1)安全衛生を推進する人材の育成、リスクアセスメントの有効化など各種労働安全衛生活動の取り組み 2)健康経営を目指し、従業員の心身の健康を増進するための教育と習慣化活動の取り組み	3 3
サプライチェーンマネジメント	11.紛争鉱物等への対応	サプライチェーンのグローバル化に伴って複雑化した問題を解決するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、「調達基本方針」に基づいた業務を遂行する	CSR調達ガイドラインに基づいた調達活動の啓蒙活動と推進	12 12
人材・人権	12.人材の多様性確保	多様な人材が個性を生かし、自らの価値を高め成長できる環境を整備し健全で持続的な成長へつなげるため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、従業員の多様性、人格、個性を尊重し、能力発揮しやすい環境をつくる	多様な人材の活躍推進と柔軟な働き方の推進	8 9
	13.人権の尊重(人権デューデリジェンス含む)	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、啓発活動を通して人権への配慮を徹底するため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、「バルカーグループ人権基本方針」に沿った事業活動の遂行	人権に関するさまざまな国際規範の理解と啓発活動の取り組み	
	14.人材育成	自社の事業の発展に貢献できる人材を育成するため	行動指針の「チャレンジ精神にあふれた『学習と成長』への強いこだわり」のもと自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人材を育成する	1)バルカーパーソンの育成 2)グループ経営を担うコア人材の開発 3)拠点経営を担うコア人材の開発 4)各事業部・各社での人材の育成	
顧客満足	15.品質の向上と顧客の安全・安心	国内外のお客さまの安全面での課題をともに解決し、安心と満足を提供するため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、自社だけでなく、国内外のお客さまの安全・安心に貢献する	1)製商品の品質の管理と、安全な使用のための情報提供・サービス 2)お客さまの安全・安心のための製商品、サービスの展開	9 12
コミュニティ	16.スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生	スポーツ振興支援や、地域に根差したサステナビリティ活動を通じて、安全・安心で豊かな社会づくりに貢献するため	行動指針の「地域社会との共生」のもと、スポーツ振興支援や、地域に根差した社会貢献を行う	1)ボールルームダンスの振興支援を通じた社会貢献活動 2)事業所周辺の緑化活動、寄付活動などの社会貢献活動	3 3

SDGsの考え方および方針

バルカーグループは企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、事業活動を通じてサステナビリティ重要課題に積極的に取り組み、SDGsと持続可能な社会の実現のために貢献していきます。

攻め

本業(H&S事業)を通じた社会的課題解決

7

2024年以降に
達成を目指す

8

2024年以降に
達成を目指す

9

2024年以降に
達成を目指す

12

2024年以降に
達成を目指す

17

2024年以降に
達成を目指す

・製品やサービスを通じた社会的課題解決への取り組み

守り

経営基盤の強化

3

2024年以降に
達成を目指す

7

2024年以降に
達成を目指す

8

2024年以降に
達成を目指す

9

2024年以降に
達成を目指す

12

2024年以降に
達成を目指す

・ガバナンスの強化、事業上の環境配慮、
サプライチェーンマネジメント、人材育成などの取り組み

社会貢献活動

3

2024年以降に
達成を目指す

・ボールルームダンス振興支援
・地域社会への貢献活動

事業概要

社会との関わり

バルカーグループ
ネットワーク

特集1

特集2

特集3

サステナビリティ
マネジメント

サステナビリティ
活動報告

編集方針

22

23

Corporate governance

コーポレート・ガバナンス

01 企業理念の浸透

「THE VALQUA WAY」理解と実践活動

バルカーグループでは、グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を、羅針盤、行動規範として、日々の活動の基盤としています。バルカーグループの従業員一人ひとりが、自らの業務にそのマインドを落とし込み、自分事として、業務の中に問題意識を持ち、業務の改善・改革につなげる活動を行っています。

また、「THE VALQUA WAY」をより浸透させるため、1年を通しての活動を共有する場として実践発表会を毎年実施しています。

この実践発表会は、いかに「THE VALQUA WAY」を自身の業務に落とし込みができたかを発表するものです。国内・階層別に予選会を行い、毎年1月に予選を勝ち抜いた代表者による全社大会を開催していて、2023年度で16回目を数えました。本大会では、13年ぶりに全ての階層が一堂に集まり大会を開催しました。

2023年度には、中期経営計画“New Frontier2023”（NF2023）のもと、ビジョナリー経営のさらなる推進を目指し、信頼をベースに、＜強み＝カ＞を意識・尊重した集団・チームを意識した活動として「OUR VALQUA WAY」という推進活動にも新たに着手しました。

また、「健全で持続的な成長」をさらに確実なものにするためには、全グループ社員へ「THE VALQUA WAY」を深く浸透させることが必要不可欠であると考えている瀧澤は、自ら各地へ赴き管理職を対象に「CEO THE VALQUA WAY浸透推進フォーラム」を2019年度より開催していて、2023年度は九州にて開催しました。

バルカーグループでは、社名にも込められている基本理念である「Value&Quality（価値の創造と品質の向上）」を実現すべく、従業員一人一人の強みにフォーカスした「THE VALQUA WAY」の全社大会を通じての相互理解の推進に加え、昨今未曾有の厳しい環境で得られた学びを基盤に、更なる人類の豊かさと地球環境に貢献するための「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を目指し、未来を切り開くことを諦めないチャレンジ精神とポジティブに物事に立ち向かう姿勢を育み、幸せと健全な成長を支えるべく、各自の強みを最大限に発揮した世界最高のチームと社員一人一人が自信をもって言える組織づくりのため、「OUR VALQUA WAY」というチームを意識した活動にも力を入れていきます。

今後もバルカーグループを上げて、ひた向きかつ覚悟をもってビジョナリー経営の推進に取り組んでいきます。

貢献するSDGs



02 コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。

内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

内部統制システム

業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備・推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容を外部環境・内部環境の変化に応じて適宜見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規定・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

その一環として、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を受けた上で開示し、財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。

コーポレート・ガバナンスの状況

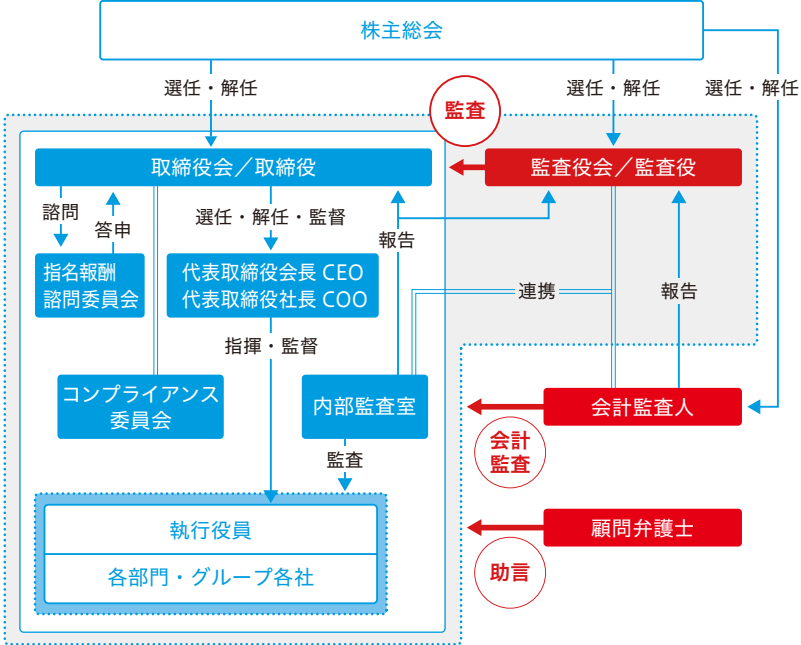
経営環境の急激な変化に迅速かつ的確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、弁護士1名、公認会計士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行について監査を行うことで、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。

さらに、取締役の指名・報酬に係る手続きの公平性・透明性・客観性を強化し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを目的として、指名報酬諮問委員会を設置しています。本委員会は、取締役会の決議によって選定された取締役により構成し、その過半数は独立社外取締役としています。また、委員長は指名報酬諮問委員会で委員のなかから選定しています。

▼ 取締役会・監査役会の構成（2024年6月30日現在）

取締役	7名（男性5名、女性2名） うち社外取締役3名（男性1名、女性2名）
監査役	3名（男性3名） うち社外監査役2名（男性2名）

▼ コーポレート・ガバナンス体制図



「THE VALQUA WAY」全社大会 一般職部門発表風景
第1席：台湾バルカー国際 彭 書儀（ボン シュ イー）



2024年「THE VALQUA WAY」全社大会表彰式



2023年8月 福岡県で開催した「THE VALQUA WAY」浸透推進フォーラムの様子

03 グループグローバルな活動の推進

サステナビリティ活動とSHE活動

サステナビリティ活動の推進

バルカーグループは従来より、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、「H&S事業を軸とした活動」「スポーツ振興支援」「地域社会に対する感謝の日」など、国内外のグループ会社が一体となって取り組みを行ってきました。

2021年からは、攻めである「本業（H&S）事業を通じた社会的課題解決」、守りである「経営基盤の強化」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進し、SDGs貢献への取り組みを強化しています。

また、人権課題への社会的な取り組み要請により、バルカーグループ人権基本方針を改定し、人権デューデリジェンスの構築と実施の一環として調達先に対する調査対象先と調査方法を決定し、実施しています。

今後もさまざまな社会的課題の解決に向けて、グループ一体となったサステナビリティ活動を推進し、その開示にも努めていきます。

SHE活動の推進

バルカーグループでは、グループSHE委員会を設置し、SHE（安全、健康、環境）を一元的に管理しています。CEOを委員長、COOを副委員長とし、各グループ会社・事業所を担当する執行役員を委員としています。SHE委員会は年1回以上の開催とし、バルカーグループのSHE活動の「年度方針」「活動計画」の決定や「活動状況」の確認を行っています。また、その内容を各グループ会社・事業所に設置したSHEチームに展開し、グループ全体で取り組んでいます。

SHE推進体制図

https://www.valqua.co.jp/social/safety_health_environment/



04 ステークホルダーとの対話

バルカーグループは、「THE VALQUA WAY」のもと、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、信頼関係の構築を図るとともに、健全で持続的な成長の実現と企業価値の向上を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーへの対応	主なコミュニケーションの方法
お客さま	H&S企業として、開発・調達・生産・営業のバリューチェーン全体で、お客さま視点に立った真のサービスソリューションを通して、お客さま価値の最大化の実現を目指しています。	● 営業活動全般 ：日々の営業活動／販売店懇親会の開催／展示会の開催／お問い合わせ対応／CSアンケートの実施／安全データシート（SDS）／各製品カタログ／カスタマーサポートツール・技術資料の発行
株主・株式市場関係者	適切かつ公正な情報の開示を実施し、それを基に株主・株式市場関係者との建設的な対話を積極的に行っています。そして対話により得られた意見を持続的な企業価値の向上のために活用しています。	● IR活動全般 ：証券アナリスト・投資家など株式市場関係者との対話／株主総会・決算説明会の開催／IRツール・資料の発行
取引先（調達先）	公平・公正、法令遵守、環境配慮、相互信頼を基本とした、CSR調達の推進に取り組んでいます。	● 購買活動全般 ：取引先との会議／CSR調達ガイドライン／CSR調達アンケートの実施
行政・自治体	法令遵守と適切な情報開示に取り組んでいます。	● 各種届出・各種会議
従業員	安全衛生の確保、人権の尊重、ダイバーシティ推進を基本として、従業員が最大限に能力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。	● 従業員エンゲージメント活動全般 ：イントラネット／従業員エンゲージメント調査の実施／各種研修／自己啓発学習の支援／労使協議会の開催／社内通報制度による通報案件への対応／企業倫理ホットラインの開設
地域社会	グローバル社会、地域との共生を目指し、環境負荷の低減、社会貢献活動に取り組んでいます。	● 社会貢献活動全般 ：スポーツ振興支援を通じた社会貢献／地域社会に対する感謝の日／従業員によるボランティア活動／地域社会・NPOとの対話、寄付活動

Compliance

コンプライアンス

05 汚職・贈収賄の防止

リスクマネジメント

基本的な考え方

バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

バルカーグループは、選択と集中による既存事業領域の収益拡大と新規事業領域の獲得による事業基盤の再構築を目指すとともに、組織単位でのリスクマネジメントとコンプライアンスの自律的遵守の強化について、継続的に取り組んでいます。

リスク管理体制

バルカーグループはリスクマネジメントを強化するため、「リスク管理委員会」を設置し、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理しています。

大規模災害など事業の継続を脅かす事象が発生した場合に、グループの統制をとり迅速に対応するため、2020年に事業継続計画（BCP）マニュアルを策定し、運用を開始しています。

これからも、多様化するリスクに備え、リスクマネジメントの強化を図っていきます。

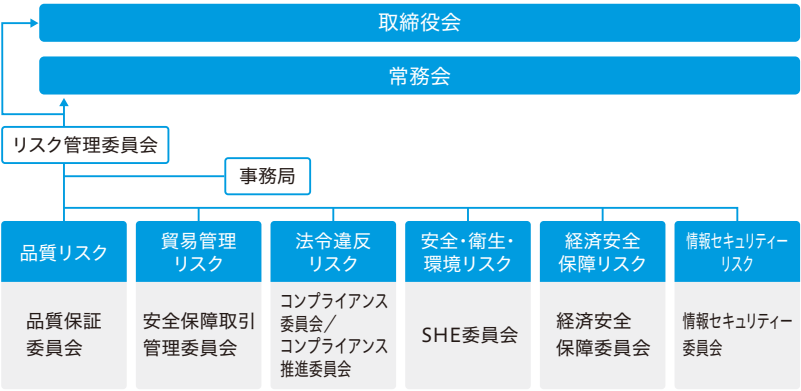
知的財産権管理

知的財産権管理を適切に行うため、知的財産部では、企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援しています。また、他者の知的財産権を尊重するために社内ルール・体制を整備し、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発のさまざまな段階で調査を徹底しています。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもとグローバルに行うことで、国内のみならず海外においても、知的財産権の尊重を徹底しています。

国内外グループ会社における法令等の遵守

バルカーグループは、グループ全体の法令等の遵守を確実なものにするために、法律事務所、コンサルタント、法令情報提供サービス会社等の支援を受けながら、国内のみならず海外子会社に適用される関連法令を調査し、法令を遵守した業務の遂行を実践しています。国・地域ごとにその内容が大きく異なる法令等の遵守を徹底すべく、グループ全体で万全の態勢で臨んでいます。

▼ リスク管理体制



腐敗防止

贈収賄防止の徹底

バルカーグループでは、全従業員に対して贈収賄防止の観点から周知を行うとともに、国内外の贈収賄規制に適切に対応するために、「バルカーグループ贈収賄防止基本方針」で右記の事項を

定め、グループ会社を含めた全従業員に対し、本基本方針および事業を行う国・地域の贈収賄防止関連法令、ガイドライン等を遵守することを求めています。

公務員等に対する贈収賄、ファシリティペイメントの原則禁止

代理店等の起用時の事前調査

会計記録の作成・保持

違反行為等に直面した際の通報・報告

コンプライアンス

06 法令等の遵守

コンプライアンス

基本的な考え方

バルカーグループにおける「コンプライアンス」とは、法令遵守にとどまりません。他の企業の模範となるべく積極的に法令や条例以上の企業倫理を遵守し、社会貢献や環境への配慮にまで踏み込んだ企業行動の実践によって、ステークホルダーの要求・信頼に応え、社会における信頼を勝ち得ていくことだと考えています。このコンプライアンスの重要性を理解し実践することが、バルカーグループの持続的な成長・発展を約束するものであると固く信じています。

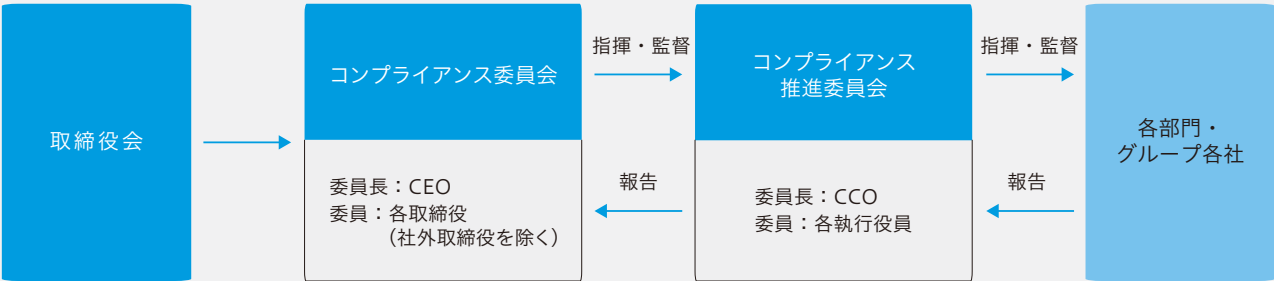
コンプライアンスハンドブック

2003年に「コンプライアンス・マニュアル」を制定し、6言語（日本語、英語、簡体字、韓国語、タイ語、ベトナム語）に翻訳することで、全グループ従業員が業務の指針として理解し、遵守すべきマニュアルとして活用してきました。その後、社会環境や要請の変化を踏まえ、具体的事例やチェックシートを盛り込むなど、内容を大幅に拡充させた「コンプライアンスハンドブック」として、国内外の全社で展開するとともに、階層別では管理職・リーダー向けおよび役員向けにそれぞれ「ハラス

メント防止のための行動ハンドブック」および「企業経営とコンプライアンス－役員の経営責任と重要課題－」を発行しました。

全グループ従業員がそれぞれの役割を認識しながらコンプライアンスに取り組む指針として活用しています。

▼ コンプライアンス体制



コンプライアンス体制

CEOを委員長としたコンプライアンス委員会と、その下にコンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー」（CCO）を中心に、グループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

報告・相談・通報制度

全グループの役員および従業員が法令や社内規則などに関する報告・相談・通報ができる仕組みとして、①意見箱、②社内相談窓口、③CEOへのダイレクトライン、④外部企業倫理ホットライン（6言語対応）、⑤社外弁護士への相談窓口といった各種窓口があり、通常の指揮命令系統から独立して運営しています。窓口に報告・相談・通

報があった案件は、「内部通報に関する規程」に沿って対応し、結果については、匿名の場合を除いて、報告・相談・通報者へフィードバックを行っています。運用においては個人のプライバシーを尊重し、報告・相談・通報者に不利益が生じることがないように配慮しています。

07 環境関連法令等の遵守

環境リスクマネジメント

活動体制

バルカーグループでは、環境に関する方針、活動計画、活動推進を、CEOを委員長としたグループSHE（安全・衛生・環境）委員会にて一元的に推進しています。

近年世界的に環境規制強化は進み、グループでは環境規制対応能力向上のための施策を強化しています。そのなかで国内外生産会社における環境法令違反は、前年度に引き続き0件を維持しています。

また製品に関連する化学物質規制強化の流れについては、規制に先んじて製造工程内の化学物質を低減する取り組みを行い、作業者の健康影響リスク低減を積極的に進めています。

各生産関係会社の法令遵守体制の整備・運用・監査の実施

国内外グループ生産会社は、ISO14001システムにより環境法令管理を行っています。

また、日々変化する法律遵守を確実なものにするために、法令情報提供サービス会社の支援を受けながら、法改正への対応、法令知識向上を実践しています。



08 環境負荷物質の漏出防止と低減

漏出防止と低減のための取り組み

2023年度事業活動に伴う環境負荷

パルカーグループでは事業活動におけるエネルギーや水などのINPUTや、エネルギー使用によるCO₂の排出、生産工程から出る廃棄物などのOUTPUTを把握することで、環境負荷の全体像を捉えています。

国内外のグループ会社から、正確かつ迅速に
収集し一元管理するため、サステナビリティ情報
収集システムを導入し、適正な温室効果ガス係数
を用いて算定、開示しています。

水素社会への取り組み

バルカーグループでは次世代エネルギーとして期待される水素市場向けに、エラストマー製シール材「BLISTANCE®」を発売し、2020年より継続した機能改善に取り組んでいます。これはプリスター現象^(※)を発生させない画期的なエラストマー製品です。プリスターが発生し、シール材が破壊されると、水素ガスが漏洩する危険性があります。

2023年には極低温・急減圧の過酷な条件下での使用が想定される燃料電池自動車（FCV）や、水素貯蔵タンク、エンジン回りの配管への使用に

において将来を含めた適用性を想定し、仕様として
低温環境～高温環境まで広くカバーできる製品
シリーズ開発を完了しました。

当社グループは強みである材料配合、シール設計の技術で、社会的課題を解決し脱炭素社会に向けて貢献していきます。

※ブリストー現象：高温・高圧環境下で水素がエラストマー素材に浸透し、急減圧で水素が膨張してゴム素材を破裂させる現象

気候変動への対応「TCFD提言に基づく情報開示」

株式会社バルカーは、2021年5月に「気候関連財務情報開示タスクフォース」(TCFD※)提言への賛同を表明するとともに、提言の推進を目的に設立された「TCFDコンソーシアム」に加入しました。バルカーグループでは企業理念「THE VALQUA WAY」に基づくビジョナリー経営を推進し、社員の一人ひとりが「安全・衛生・環境は人類共通の重要テーマの1つである」ことを強く意識した企業活動を実践しています。また、創業100周年(2027年)を区切りとする長期経営目標では、ありたい企業像として「未来と未知に挑むチャレンジングな企業－人類の豊かさと地球環境に貢献するために－」を掲げ、より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献できる企業となることを目指しています。このような認識・考えのもと、企業価値向上に努めています。



TCFD提言に基づく情報開示 <https://www.valqua.co.jp/social/environment/>



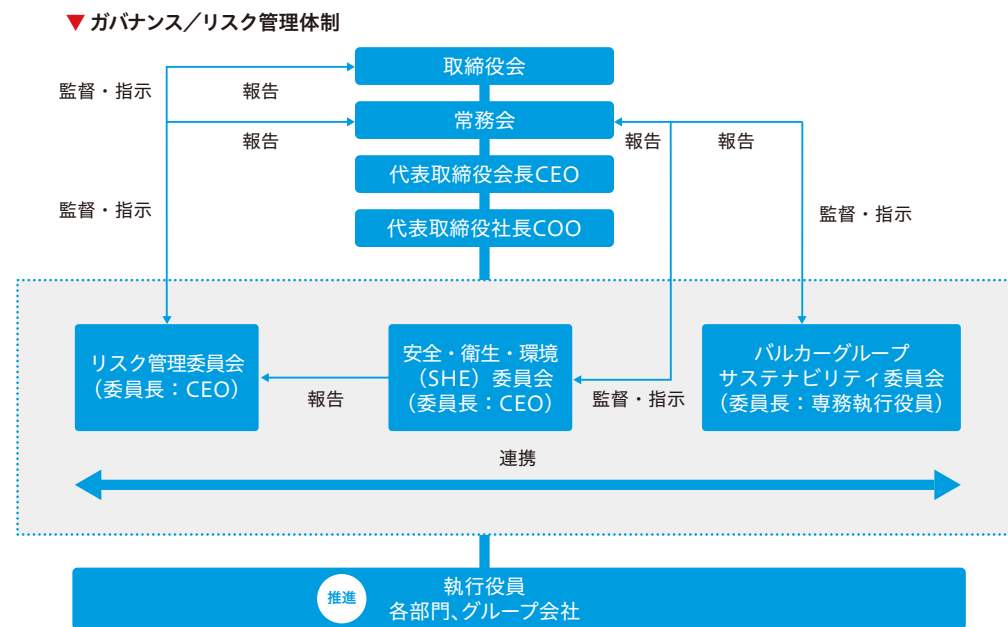
※TCFDについて
<https://www.fsb-tcfd.org>
 G20の要請を受け、主要国の金融
 関連省庁および中央銀行より構成
 された金融安定理事会（FSB）によ
 り、2015年12月に設立されたタス
 クフォースで、2017年6月に気候
 関連の財務情報開示に関する提言
 を公表しました。現在、世界中の
 金融機関や企業、政府などが
 TCFDの提言に賛同しています。

1.ガバナンス

パルカーグループでは、気候関連課題を重要な経営課題とし取締役会の監督のもと取り組んでいます。なお、気候関連課題に関する当社グループのガバナンス体制は下図の通りです。

まず気候関連課題は、「パルカーグループサステナビリティ委員会」においてサステナビリティ経営に伴う重要課題（マテリアリティ）のひとつとして特定され、当該課題に対する基本的な方針および取り組みを審議・決定し、定期的に常務会へ報告しています。

特に気候変動関連のグループ全体で取り組むべき施策については、当社グループの「安全・衛生・環境（SHE）委員会」において審議・決定し、各部門・グループ各社の「安全・衛生・環境（SHE）推進チーム」の活動に反映させることで、グループ横断的かつ効果的な取り組みに繋げる体制とし、定期的に常務会へ報告しています。また「リスク管理委員会」では、気候変動関連のリスクを含むリスクを定期的に取締役会・常務会に報告し、監督・指示を受けています。



2.リスク管理

パルカーグループでは、リスクマネジメントを強化するため、「リスク管理委員会」を設置し、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理しています。

気候変動関連のリスクについては、バزلカーグループサステナビリティ委員会および安全・衛生・環境 (SHE) 委員会のほか、コーポレート部門と事業部門が連携してリスク・機会の識別や評価、対応策の検討を行っていて、これらの特定された重要なリスク・機会は、リスク管理委員会に適宜情報共有され、必要に応じて全社リスクに統合しています。

全体リスクの管理状況は定期的にリスク管理委員会から取締役会および常務会に報告し、監督を適切に受ける体制を整えています。

環境

3.戦略

パルカーグループの財務に影響を及ぼす気候変動関連リスク・機会の特定にあたり、IEA^(※1)やIPCC^(※2)などのデータを基に、4℃シナリオ（成り行きで温暖化が進行するシナリオ）と1.5℃シナリオ（脱炭素化が進展するシナリオ）の2つのシナリオに基づき分析を実施しました。

シナリオの定義

対象期間：2050年を想定してリスク・機会を特定（ただし、財務への影響については2030年を念頭に評価）
対象範囲：パルカーグループ
参照シナリオ：
1.5℃においてはIEA NZE、IPCC RCP1.9等
4℃においてはIEA STEPS、IPCC RCP8.5等

※1 IEA：International Energy Agency（国際エネルギー機関）
※2 IPCC：Intergovernmental Panel on Climate Change（気候変動に関する政府間パネル）

シナリオ分析の結果、特定した気候変動関連の主なリスク・機会、およびそれらリスク・機会に対する今後の対応策は以下のとおりです。

【1.5℃シナリオ(脱炭素化が進展するシナリオ)】

シナリオの世界観		財務への影響項目	程度	時間軸	対応策
脱炭素化への移行に伴う大きな社会変化が起こることを想定しています。 例えば、カーボンプライシングの導入や脱炭素エネルギーへのシフト、リサイクル技術の進展等を見込んでいます。 また、自動車産業では次世代車の普及が急速に進む他、さまざまな分野でGHG削減や省エネ化に寄与する技術や製品が求められるようになり、それらに用いられる半導体の需要はより拡大することを予想しています。	リスク	【政策・法規制】GHG規制強化に伴い、電力会社の電源構成の変化（再エネ由来の電力比重の増加）によるエネルギーコストの増加	中	短期	●全社的な省エネ設備、再生エネルギーの導入 ●製造工程における歩留まり向上、生産性改善による省エネ化による電力使用量の削減 ●製造工程における省エネ設備の導入
		【災害】自然災害の激甚化により、生産拠点や事業所において操業停止による売上減少や、設備の被災による復旧コストの発生、サプライヤーからの材料調達途絶	中	中期	●自社グループやサプライチェーンにおけるBCP策定と定期的な改定、実施状況のフォロー ●被災による損害を最小限に抑えるための、防災対策の見直し・強化 ●損害保険の付保
	機会	【半導体市場】脱炭素・低炭素や省エネに貢献する製品需要の増加に伴い半導体装置等向け製品売上の増加	大	中期	●先端市場向け製品の研究開発体制の強化 ●M&Aや業務提携による新技術の獲得（半導体市場のみ）
		【EV関連等市場】EVおよびFCV等に使用されるシール製品等の売上増加	中		●顧客ニーズの調査や販売力の強化 ●供給能力の拡大

【4℃シナリオ(成り行きで温暖化が進行するシナリオ)】

シナリオの世界観		財務への影響項目	程度	時間軸	対応策
低炭素・脱炭素への規制強化はそれほど進まず、平均気温上昇等の気候変動により自然災害の激甚化を想定しています。 また、自動車産業では次世代車の普及が緩やかに進み内燃機関車の生産・販売が中心となることを想定しています。 ただし、技術革新の追求は止まることなく、半導体の需要はより拡大していくものと想定しています。	リスク	【災害】自然災害の激甚化により、生産拠点や事業所において操業停止による売上減少や、設備の被災による復旧コストの発生、サプライヤーからの材料調達途絶	大	短期	●自社グループやサプライチェーンにおけるBCP策定と定期的な改定、実施状況のフォロー ●被災による損害を最小限に抑えるための、防災対策の見直し・強化 ●損害保険の付保
	機会	【半導体市場】脱炭素・低炭素や省エネに貢献する製品需要の増加に伴い、半導体装置等向け製品売上の増加	大	短期	●先端市場向け製品の研究開発体制の強化 ●M&Aや業務提携による新技術の獲得（半導体市場のみ）
		【EV関連等市場】EVおよびFCV等に使用されるシール製品等の売上増加	中	長期	●顧客ニーズの調査や販売力の強化 ●供給能力の拡大

※顕在期間：短期3年以内、中期4～6年、長期10年以上
※GHG：Greenhouse Gas（二酸化炭素などの温室効果ガス）
※BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）

今回、パルカーグループの気候変動関連のシナリオ分析を実施した結果、分析で使用したいずれのシナリオにおいても、高いレジリエンスを有していると評価しました。今後、特定したリスクへの対応と機会への実現に向けて、取り組みをより一層推進していきます。

また当社グループは持続可能な社会の実現を目指して、経営予算、事業計画の決議を行う際には、経営理念である「THE VALQUA WAY」や「創業100周年（2027年）のありたい企業像」に従い、気候変動問題を考慮することとしています。

例えば、設備投資予算では環境投資予算を区分管理し、常務会において決議しています。

4.指標と目標

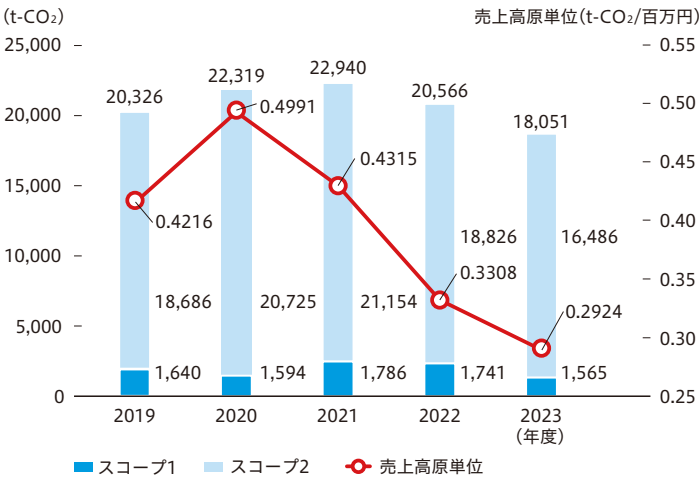
パルカーグループでは、気候変動影響の緩和に向けて、合理化・原価低減活動や、老朽化設備の更新、太陽光発電による自家発電等の施策を通じ、売上高原単位（t-CO₂/百万円）^(※1)前年度比1%減を目標として、温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいます。また、その実績については、温室効果ガス排出量（スコープ1^(※2)、2^(※3)）を算定し、温室効果ガス排出量の状況をモニタリングしています。

スコープ3^(※4)についてもモニタリングを続け、ホームページで公開しています。

<https://www.valqua.co.jp/social/environment/>
（2023年度データは2024年7月以降掲載予定）



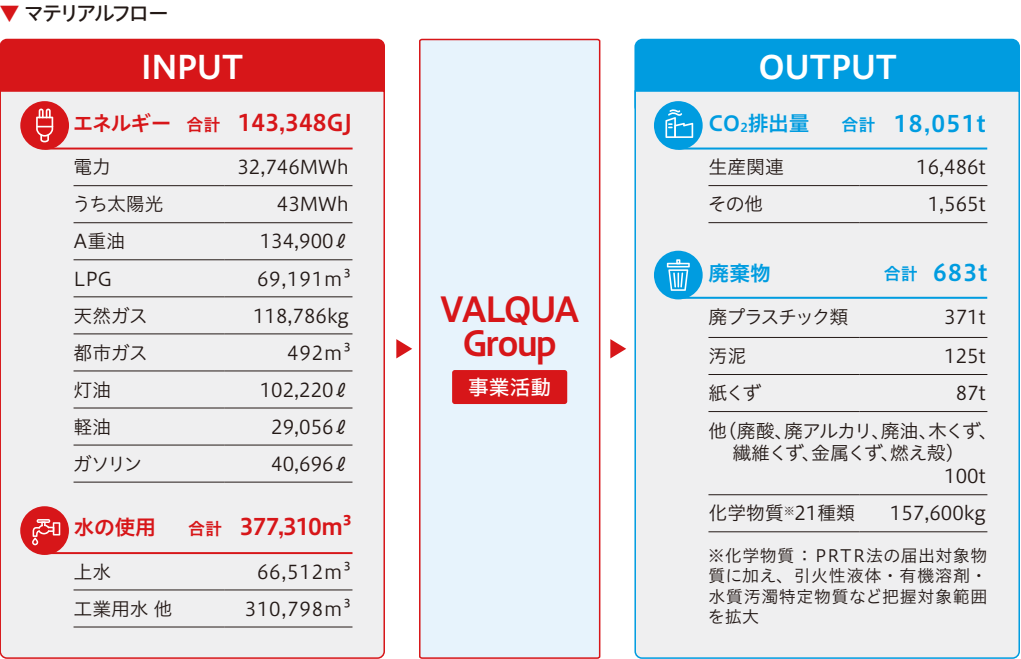
▼温室効果ガス排出量推移（スコープ1+スコープ2）



※1 売上高原単位（t-CO₂/百万円）：スコープ1+2として算出した温室効果ガス排出量を当該年度の売上高で除した値
※2 スコープ1：事業者自らによる温室効果ガス直接排出
※3 スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
※4 スコープ3：スコープ1、2を除いて、原料調達から生産、販売、廃棄までにおける間接排出
※温室効果ガス排出量：「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数、海外工場所在国の電力の排出係数を毎年再確認し算定

09 事業上の環境負荷物質の低減

対象：バルカーグループの国内外事業所（一部、地方営業所、駐在所、海外の販売会社など規模の小さい16拠点を除く）
集計期間：2023年3月～2024年3月



主要な環境負荷の推移

温室効果ガス排出量（直接排出）

2023年度は2022年度に比べて絶対量で2,515tの排出量減。内訳は合理化・原価低減活動による温調管理の見直しや老朽化設備の更新の効果で327t削減、一時的な半導体市場の需要減速等により2,188t減少しました。この結果、売上高原単位で12%の削減となりました。

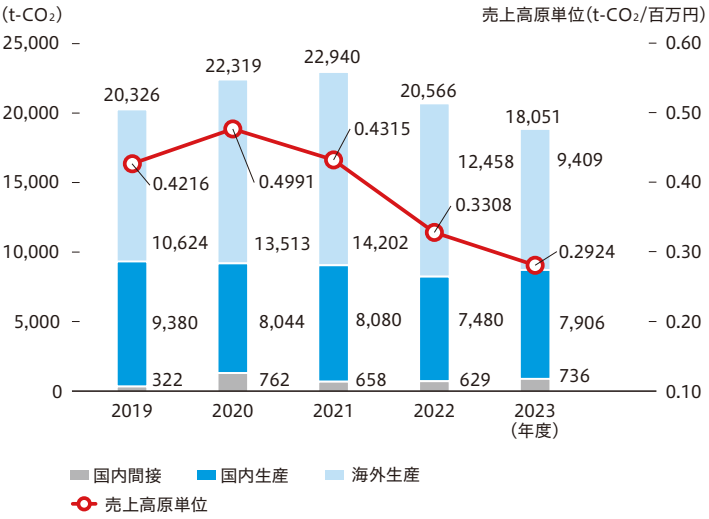
温室効果ガス排出量（間接排出）

2014年度よりサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を始め、10年目となりました。スコープ3やその他環境に関するデータの詳細はホームページをご覧ください。

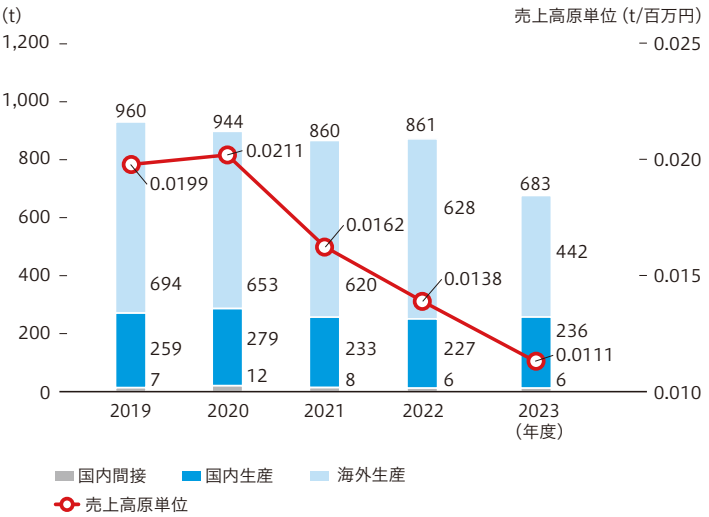
廃棄物最終処分量

2023年度は2022年度に比べて絶対量で178tの排出量減。内訳は、合理化・原価低減活動による不良改善や歩留まり向上の効果で9t削減、一時的な半導体市場の需要減速等により169t減少しました。この結果、売上高原単位で14%の削減となりました。

▼ 温室効果ガス排出量推移（国内+海外）



▼ 廃棄物最終処分量推移（国内+海外）



※温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。スコープ1は、事業者自らによる温室効果ガス直接排出、スコープ2は他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、スコープ3は、スコープ1、2を除いて、原料調達から生産、販売、廃棄までにおける間接排出のことを指します。電力は各国の情報提供が充実してきたことから2020年度より拠点ごとの排出係数を調査し算定しています。

スコープ3（2023年度データ掲載予定） <https://www.valqua.co.jp/social/environment/>



Health and safety

安全衛生

10 労働安全衛生



安全職場と心身の健康

プロアクティブ人材の育成

安全で健康的な職場の実現に向けて、能動的に行動する内部監査員、衛生推進者、また、職場に存在するリスクを職場で周知し排除する活動を推進するリーダーの育成に取り組んでいます。

安全衛生推進体制の体系化と有効化

ステークホルダーの期待に応えるため、世界標準に準拠したシステムを機能させ、危険源を特定して潜在的リスクを排除すること、また、ウェルビーイングに繋がるメンタル・フィジカルケアによる従業員の心身の健康保持増進に努めています。

心と体の健康管理

https://www.valqua.co.jp/social/safety_health/



安全衛生推進活動

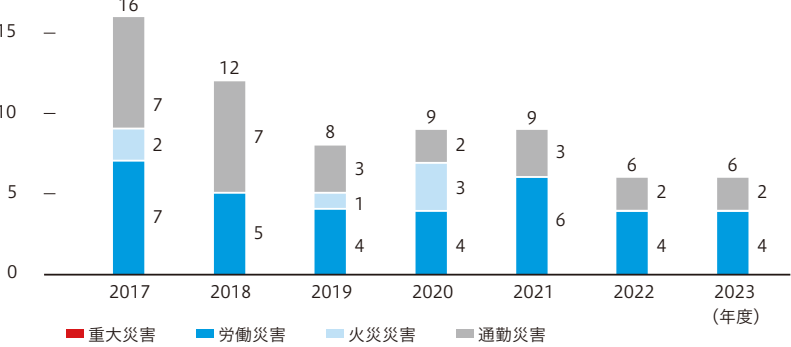
バルカーグループ安全衛生の日

バルカーグループでは、5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、安全意識の高揚を図っています。また、7月の第1週をSHE Week（安全・衛生・環境）と定め、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生環境活動強化のためのイベントを開催しています。

積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国・地域ごとに異なる法規制や習慣などに伴うリスクが顕在化してきました。こうしたリスクの変化に対応した活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。また、健康経営の視点から従業員の心身の健康づくりに注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりを積極的に推進しています。また、気候変動や感染症、ストレスなど健康リスクに備えて、危機管理の強化を進めています。

▼ 災害発生件数 (件)



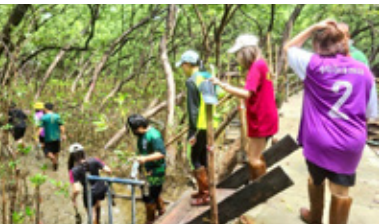
▼ SHE Weekでの海外拠点での活動状況



タイバルカー
安全衛生祈願祭



台湾バルカー
VRを使った危険の疑似体験



タイバルカー
滑りやすい森での安全歩行訓練と健康増進のウォーキングを兼ねたマングローブ植林活動

Supply Chain Management

サプライチェーンマネジメント

11 紛争鉱物等への対応



CSR調達への推進

CSR調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

CSR調達アンケートの実施

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。
2020年度からは、新たな取り組みとしてコンプライアンス遵守の評価を厳格化するため、アンケートの設問を今までの20問から、コーポレート・ガバナンス、サプライチェーン、環境などの設問

を増やした30問に拡充し、さらに、調査対象をこれまで実施してきた主要なサプライヤー以外のサプライヤーまで範囲を広げたアンケート実施をしています。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケートの内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働への取り組みを行っていきます。

紛争鉱物^{*}等への対応

バルカーグループは、紛争鉱物への対応等、人権リスクへの対応を企業の責務と捉えて、CSR 調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。また、2022年度には「人権デューデリジェンス」を意識した活動にするため、紛争鉱物に「コバルト」「マイカ」を追加しています。今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に加盟しない取り組みを強化していきます。

調達基本方針、
バルカーグループ
CSR調達ガイドライン

<https://www.valqua.co.jp/social/csrprocurement/>



※紛争鉱物：紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

▼ CSR調達アンケートの確認項目（2022年度から紛争鉱物の対象に「コバルト」「マイカ」を追加。）

項目	取り組み内容
CSR	● 法令遵守・違法行為の予防 ● C S R 推進 ● 取引先への展開
コーポレート・ガバナンス	● 内部統制 ● 内部通報 ● 適切な輸出入
公正取引	● 腐敗（政治献金・寄付、贈収賄等）防止 ● 優越的地位の濫用防止 ● 不適切な利益の供与や受領の防止
情報・セキュリティ	● 知的財産の管理 ● 個人情報や、顧客の機密情報の管理 ● コンピューターネットワークへの攻撃に対する防御
サプライチェーン	● 法規制、社会的規範、業界規範および規格の遵守 ● 紛争鉱物（紛争地域産のタンタル、すず、タングステン、金とその派生物、コバルト、マイカ）の使用
人権	● 人権の尊重 ● 差別の禁止
労働	● 採用時の差別の禁止 ● 従業員への平等な機会の提供 ● 禁止事項の遵守 ● 労働時間、休暇、有給休暇の公正な適用
環境	● 法令等で指定された化学物質の管理 ● 排水・汚泥・排気の管理 ● 資源の持続可能で効率的な利用 ● 温室効果ガスの排出量削減 ● グリーン調達および廃棄物削減
安全衛生	● 安全で健康に働ける環境 ● 作業者の安全 ● 災害への備え ● 災害・事故発生時の体制
BCP	● 事業継続計画への取り組み

Human resources / Human rights

人材・人権

12 人材の多様性確保

職場環境づくり・各種制度

さまざまな状況の社員が活き活きと働ける柔軟な働き方を提供

バルカーでは、社員が育児・介護と仕事を両立し、社員がやりがいと生きがいを持って働けるようWell-being経営を追求しています。社員の慶事を祝うべく出産祝金の見直し、自己申告等を活用した社員の声への対応の他、デジタル開発部門に特化した新制度の設立、フレックス勤務制度や1時間単位・半日単位の有給休暇取得制度、リモートワーク勤務、副業など、社員それぞれに合わせた働き方実現の基盤づくりを積極的に推進しています。今後も社員一人ひとりが自らの可能性を最大限発揮できる環境づくりに取り組んでまいります。

性別や年齢を問わず活躍できる環境づくり

当社では性別や年齢、経歴に関係なく人材を登用し、多様な視点を取り入れ、さらなるイノベーションの推進を図っています。特に、女性のキャリア開発と成長は重大課題として女性管理職比率の目標を定め、海外グループ会社の経営層などで積極的な登用を行っています。

また、入社年数や年齢にとらわれず、よりスピーディーに管理職になれるよう、2024年からは新たに「飛び級受験」制度も開始しました。一方で、60歳を超えてもやる気・能力・スキルがある社員には、責任ある仕事を任せするなど、適所適材で人材の活躍を促進しています。

障がい者雇用の推進

地域との共生を目指しバルカーグループでは、地元の特別支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方々に働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

貢献するSDGs

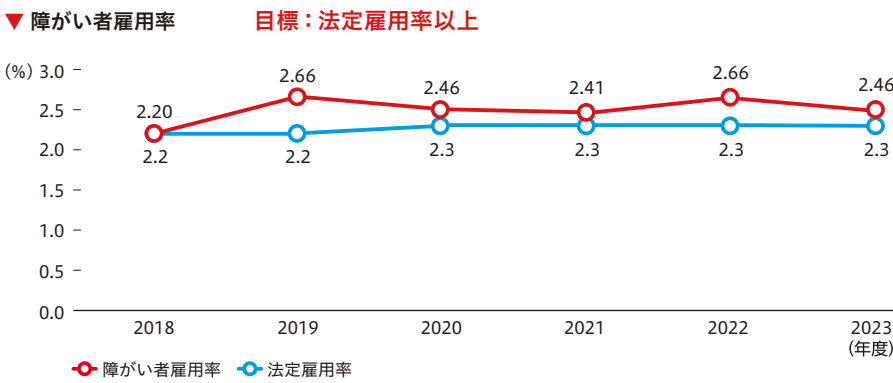
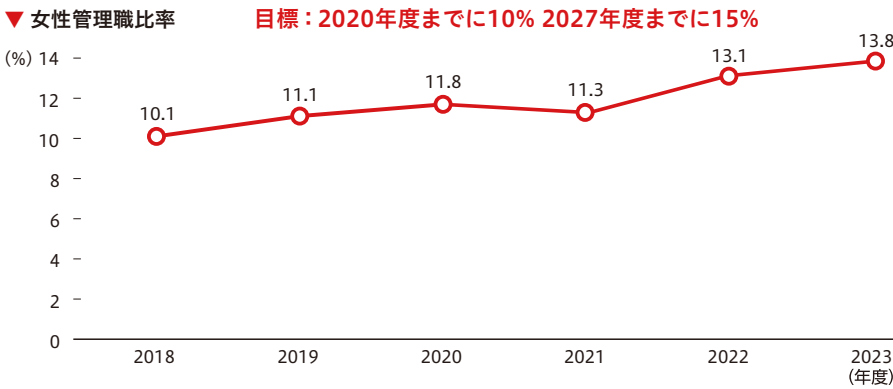


柔軟な働き方を支援する制度
● 副業（短日勤務制度）
● リモートワーク制度（リモートワーク手当含む）
● 介護休業「連続取得期間は最長3年」
● 1時間単位の有給休暇取得制度
● 子どものバースデー休暇
● 育児のための有給特別休暇
● 育児短時間勤務 「子どもが小学校3年生に達するまで」
● 育児休業「2歳6カ月に達する日まで」
● パパ育休制度
● フレックスタイム制度 （コアタイム13:00～15:00）
● 介護短時間勤務
● キャリアリターン制度

（2024年6月30日現在）

エンゲージメント

急激な環境変化に対応し、また、創業100周年のありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を実現するために、当社では個々の社員が会社の進むべき方向性を自ら考え、チャレンジすることが重要だと考えています。そのためにも、社員のエンゲージメント向上を積極的に推進しています。2020年からは毎年、エンゲージメント調査を実施し、調査結果をもとに、各部門で改善策を実施し、社員一人ひとりの人格と個性を尊重し、対話を重視した風通しのよい職場づくりを進めています。



13 人権の尊重（人権デューデリジェンス含む）

人権の尊重

バルカーグループでは、2017年3月に、国連グローバル・コンパクトも踏まえながら「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。2022年9月に経済産業省が「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」（以下「本GL」）を公表するなど、人権尊重に関する社会的要請が強まる中、当社でも、同方針を2023年8月に改定しました。

本方針に基づき、毎年グループ各社や調達先などに人権に関する調査を行い、グループ全体の人

権基本方針の周知と理解度の確認、および人権に関する取り組み状況を確認しています。この結果を分析し、各グループ会社が自主的に人権問題の把握や防止・対処ができるようにサポートしながら、人権に対するさらなる意識向上に向けアクションの推進を図ります。

また、バルカーグループではコンプライアンスハンドブックを展開し、グループ各社でも勉強会や外部トレーニングに参加するなど、人権意識を維持向上するための自主的な取り組みを行っています。



バルカーグループ
コンプライアンスハンドブック

バルカーグループ人権基本方針
[https://www.valqua.co.jp/
social/human_resources/](https://www.valqua.co.jp/social/human_resources/)



14 人材育成

人材育成

バルカーグループでは、基本理念である「Value& Quality（価値の創造と品質の向上）」を実現すべく、見えないもの（思考・言葉・想い）を大切に、そしてそれを伝え、共感し、可能性を信じ、皆で想いを実現できる環境をつくり出し、全員がリーダーシップを発揮できる組織づくりを行っています。そのため、社員一人ひとりの強みを意識した人づくりに取り組み、ジョブローテーションやOJT、年間の目標管理に加え、「人材開発宣言」「人材開発方針」に基づき、さまざまな研修プログラムを提供しています。

全社員を対象にした研修・自己啓発プログラムの他、各種選抜研修を実施し、昨今の激変する世界情勢においても、未来を切り開くことを諦めないチャレンジ精神とポジティブに物事に立ち向かう姿勢を育み、幸せと健全な成長を支え、各自の強みを最大限に発揮し「人類の

豊かさや地球環境」に貢献していく人材の輩出に力を入れています。

（選抜研修の一例） 生産会社経営者育成研修

固定概念に囚われぬ発想・想像力でバルカーのビジョンを描き、組織をけん引する人間力と革新力を十二分に発揮する生販技を兼ね揃えた総合的な生産会社経営者の輩出を目指し、2コースに分けて、選抜教育を実施しています。

目標管理と人事評価の仕組み

社員目標は、自らの目標を会社方針や部門ミッションをもとに部下と上司が話し合って設定します。人事評価は、部下の自己評価を参考に上司がコミュニケーションを取りながら決定します。2023年には管理職向けに評価者研修を実施し、評価を通じて社員の課題や改善点を明確にして次に活かすなど、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。

求める人材像	多種多様な研修プログラム
● 企業理念「THE VALQUA WAY」に共感できる人 ● グローバルな視点で判断や行動のできる人 ● 学習と成長への強いこだわりを持ち、自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人 ● スピーディーな判断力や行動力を有し、時代の変化・変革を先取りして果敢にチャレンジできる人	1. グローバル化に向けた人材育成 2. グループ経営を担う人材の育成 3. 階層別研修 4. 職種別研修 5. 自己啓発 6. OJT

Customer satisfaction

顧客満足

15 品質の向上と顧客の安全・安心

貢献するSDGs



品質方針、
品質マネジメントシステム

[https://www.valqua.co.jp/
social/safety_quality/](https://www.valqua.co.jp/social/safety_quality/)



現代ガスケット概論

ガスケットとボルト締め、フランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の"ガスケット解説書"

[https://www.valqua.co.jp/
technical/gasket-
introduction/](https://www.valqua.co.jp/technical/gasket-introduction/)



バルカー技術誌
「バルカーテクノロジーニュース」

[https://www.valqua.co.jp/
tech/technical/](https://www.valqua.co.jp/tech/technical/)



※「Seal Quick Searcher」は当社ホームページからご利用いただけます。

[https://www.seal.valqua.
co.jp/seal/](https://www.seal.valqua.co.jp/seal/)



品質保証体制と方針

バルカーグループでは、「グループ品質保証委員会」を組織し、グループ全体を統括するグローバル体制を構築しています。品質保証部を中心として、国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する各事業本部や生産調達本部など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

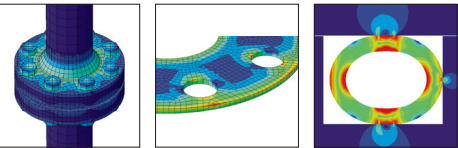
また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに従業員一人ひとりが具体的目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。その上で、関連法規制を遵守、お客さまの求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、現実的に困難でした。バルカーグループでは、こうした課題に対して、FEA（有限要素解析）を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで評価が困難であった大口径装置、高温や高圧条件での漏えいや破壊などの検証および寿命の予測が可能となりました。他にも、製品設計における形状や材料の多種多様な組み合わせの効率的な評価にもFEAを用いて、設計のスクリーニングとして効果的です。

今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。



三次元解析

顧客の安全・安心のための
サービスの開発と普及を推進

バルカーグループでは、シール製品の製造販売にとどまらず、お客さまの要望に合わせてシールトレーニングを進化させ、プラント事故の一因でもあるシール締結に関する漏えいトラブルを減らすための技能者育成支援に取り組んでいます。

また、これまで培ってきた独創的技術とIoT等のスマート技術を融合させたシールエンジニアリングサービスを推進しています。

プラントの保安技術高度化ニーズに応える形で各種サービスの開発、展開を加速させて、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。

シール製品検索ウェブサイト

『Seal Quick Searcher』

製品選定に悩むお客さまの要望にお応えし、選定ミスによるトラブルを防止するため、多様な切り口での製品検索サイトを開設しています。流体・温度・圧力などの使用環境、キーワード、産業分野などから当社推奨製品を検索できるサービスや、取り扱いに必要な締め付け力の自動計算サービスなどによって、今すぐ最適な製品を選定したい、必要な情報だけを用いて技術資料を作成したいというお客さまの個別課題をリアルタイムに解決。今後も本サイトの充実を図り、幅広い視点でお客さまの期待に応えていきます。

Community

コミュニティ

16 スポーツ・文化・芸術の振興
社員の心と身体 の健康促進
地域社会との共生

貢献するSDGs



スポーツ振興支援

「ボールルームダンス」振興の確かな成果と
新たな取り組み

バルカーグループでは長年にわたり、人々の健康や生活を豊かにする「スポーツ」の振興支援に取り組んでいます。2014年からは、年齢や障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる生涯スポーツである「ボールルームダンス」の普及・振興を支援しています。

2023年度はコロナ禍を乗り越え世界各国との交流が再び活発となりました。各大会や選手、関係者へのさらなる応援と後押しの想いから、視覚障がい者の全国大会「全日本ブラインドダンス選手権大会」や「アジアオープンダンス選手権大会」などさまざまな大会支援を行いました。

社員の心と身体 の健康促進

「ボールルームダンス」振興と社員の心と身体 の健康促進のため、国内外の拠点にて基本毎週1回、昼休憩時に社内ボールルームダンス教室を開講しています。本社では、健康体操を取り入れて、より参加しやすいダンス教室づくりに努めています。また、毎年のクリスマスイベント時にはダンス発表のチャンスがあり、日ごろの練習の成果を発揮すべく積極的に練習を重ねています。

台湾やベトナムなど海外拠点においても、心のリフレッシュや運動不足解消のため、楽しみながらボールルームダンスのレッスンを行っています。



本社ダンス教室メンバーによるダンス発表



バルカーベトナムでのダンスレッスン



2023/バルカーカップ ジャパンオープンショーダンス選手権

地域社会との共生

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」の行動指針の「地域社会との共生」に基づき、世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのかを常に考え、毎年「地域社会に対する感謝の日」を設け、地域社会に根差したボランティア活動を実施しています。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場の44カ所の従業員とその家族が参加しています。

2023年度は、各拠点で工夫を凝らしながら、地域社会への貢献につながるさまざまなボランティア活動を行いました。

タイバルカー
孤児院支援活動

タイバルカーでは、さまざまな事情により親と離れて暮らしている孤児院の子どもたちと触れ合うとともに、生活用品の寄付を行いました。

とても素敵な笑顔に囲まれ、ボランティアで参加した従業員もたくさんの元気をもらう機会となりました。



子どもたちと一緒に楽しい時間をすごしました

バルカー M・R・Tセンター
裏山の再生準備活動

害虫が媒介する菌に感染したミズナラやコナラなどの木が枯れる伝染病「ナラ枯れ」。近年、特に関東地方で被害が拡大していますが、M・R・Tセンター裏手の山も被害にあい、倒木による被害を防ぐため伐採が行われました。

豊かな自然環境を守るためにこの山を再生したいと、裾野の除草作業を行うとともに、どんぐりの収集と苗木の育成を行っています。



皆で植えた育苗ポットからどんぐりの芽が出ました

九州バルカー
地域清掃活動

工業団地内企業の物流や通勤を支え、近隣住民の生活道路として小中学生の通学路にもなっている道路や歩道を綺麗に保つことは、大型車両のタイヤによる小石や空缶等の跳ね飛ばしによる歩行者危険の防止にも繋がります。

安定して生産活動ができる地域環境に感謝し、工場周辺の道路、側溝等の清掃活動を行いました。



側溝の小さなゴミも見逃さず清掃しました

社会貢献団体の活動支援、
各種寄付活動について

https://www.valqua.co.jp/social/action_program/

コーポレートレポート 2024について

2024年から、Sustainability Reportを改め
Corporate Report – Corporate Profile & Sustainability Report –
として発行しました。

【編集方針】
2022年まで発行してきたサステナビリティレポートに、会社案内を統合してSustainability Report 2023を昨年発行しましたが、本年は、バルカーグループのサステナビリティに関する基本的な考えと、サステナビリティ重要課題に沿った取り組み、さらに経営情報などの企業情報を掲載したCorporate Reportへと変化させて発行いたしました。

ステークホルダーの皆さまには、現在のバルカーグループ全体像を知っていただき、また当社グループの目指す事業活動、サステナビリティ活動に関してのご理解をいただけたらと思います。

本レポートは、冊子で発行し、同時にホームページ上にも掲載しています。

【発行年月】
2024年7月発行(前回2023年6月)

【報告対象期間】
2023年4月1日～2024年3月31日
報告の一部に上記対象期間前後の内容を含みます。
なお、体制図、方針などは、2024年6月30日現在のものです。

【発行責任部署および連絡先】
株式会社バルカー 総務部 総務グループ 総務企画チーム
E-mail:csr@valqua.com

【報告対象範囲】
株式会社バルカーおよび その連結子会社15社
(障がい者雇用率、女性管理職比率はバルカー単体の数値としています。)

【参考にしたガイドライン等】
GRI スタンドダード、ISO26000、国連グローバル・コンパクト、
SDGs(持続可能な開発目標)、RBA 行動規範

PDF版	重点的なサステナビリティに関する取り組みを 年次レポートとしてまとめています。	Web版	Webサイトには最新情報・追加情報を網羅的に 掲載し、随時更新しています。
	https://www.valqua.co.jp/social/report/		https://www.valqua.co.jp/social/

会社概要

株式会社バルカー 本社：〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階
創業：1927年1月21日／設立：1932年4月8日／資本金：13,957百万円
上場証券取引所：東京証券取引所プライム市場／従業員数：423名(グループでは1,670名、2024年3月31日現在)